

大阪市小学校教育研究会

国語部 高学年委員会

令和7年度

めざす学習者像

文章を読んで理解したことに基づき、
自分の思いや考えを広げようとしながら進んで読む

5年 『物語おもしろパズルをつくり、物語のおもしろさを解説しよう』

(教材名「注文の多い料理店」東京書籍5年)

6年 『心に残った表現をポスターにまとめよう』

(教材名「模型のまち」東京書籍6年)

本文中の教材文の引用は、上記の教科書に基づいています。

令和7年度 国語部5年生委員会の研究
 単元名 物語おもしろパズルをつくり 物語のおもしろさを解説しよう
 (宮沢賢治「注文多い料理店」東京書籍年)

視点1 学習者が「学びのつながり」を意識して学習を進めるための単元構想

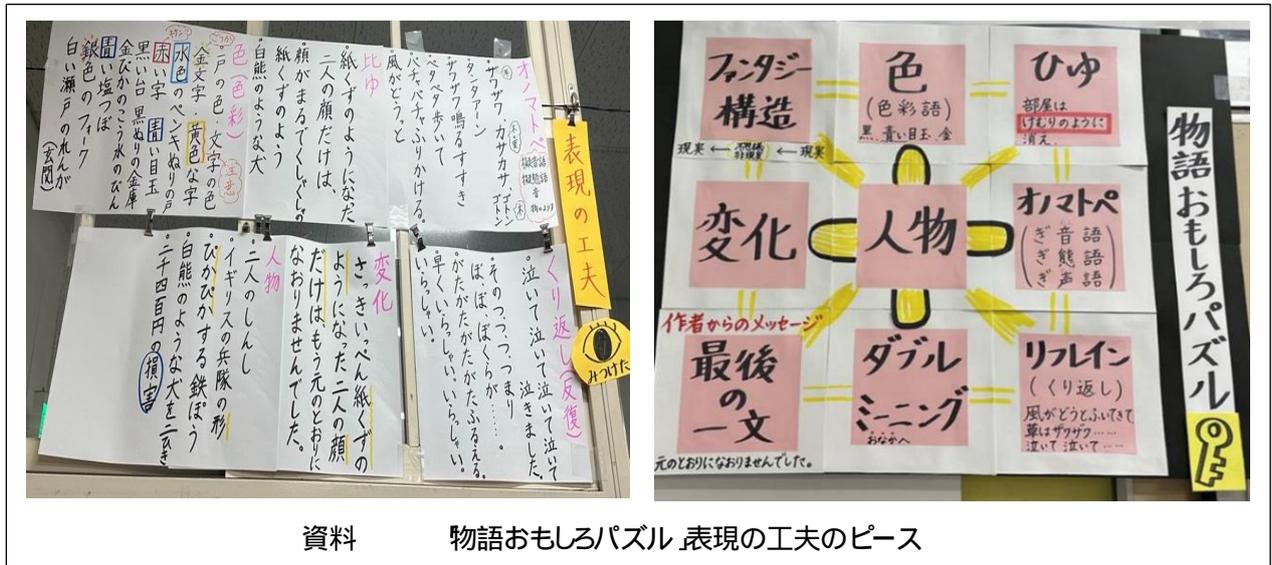
【付けたい力と学習材の特性に適した言語活動】

読みの観点を表現の工夫に焦点化

5年生委員会が目指す学習者の姿は、以下の通りである。

	学習指導要領における指導事項	単元目標を達成している学習者の姿
	付けたい力 表現の工夫を見付け、そのおもしろさを解説する。	
知	比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。(1)ウ	表現の工夫であるオマトペ(擬音語、擬態語、擬声語)、色彩語、比喩、リフレイン(反復)、ダブルミーニング(複数の意味が込められている言葉)、ファンタジー(物語の構成)を理解し、物語のおもしろさについて、考えたことを書き表している。
思	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。(1)イ	二人の紳士の見栄っ張りなところや命を軽視しているという人物像の大体に気付き、物語の設定のおもしろさを根拠から考えている。
思	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えた! すること。(1)エ	二人の紳士の人物像から戸に書かれた「注文」の言葉を自分勝手に解釈する二人の紳士と生き物の命を大切にしない二人の紳士を懲らしめようとしている山猫の「注文」という違いに気付き、考えと理由、根拠を明らかにして伝えている。

文章を読んで理解したことに基づき、自分の思いや考えを広げようとしながら進んで読む」学習者を育てるために、本単元では学習材の特性を踏まえ「表現の工夫を見付け、そのおもしろさを解説する力」を付けたい力とした。そのため「物語おもしろパズルをつくり 物語のおもしろさを解説しよう」という言語活動を設定した。(資料)



資料 物語おもしろパズル 表現の工夫のピース

本単元で扱う学習材「注文の多い料理店」は、表現の工夫によって物語のおもしろさが生み出されておりオノマトペ(擬音語、擬態語、擬声語)、色彩語、比喩、リフレイン(反復)、ダブルミーニング(複数の意味が込められている言葉)、ファンタジー(物語の構成)や題名などの表現の工夫に着目しやすい作品である。

「物語おもしろパズルをつくらう」という言語活動は、物語に用いられている上記の表現の工夫をパズルのピースに見立て、友達や家族などにそのおもしろさを伝え活動である。第一次、第二次の学習を進めていく中で表

現の工夫のパズルピースが毎時間一つずつ埋まっていくことで、次はどのような表現の工夫があるのか、知りたい、探したいと学習者の意欲を喚起することができる。その結果、自ら学びを進めようとする主体的な姿の育成が期待される。また、学習者が物語のおもしろさを見付け伝え合うことは、喜びや達成感を共有でき、自己有用感をもつこともできると考えられる。そのため、他者に伝えるために読むという必然性を持ちながら、学習者が自ら読み進める言語活動として適していると考えた。

第三次では、「物語おもしろパズル」のピースから一番おもしろいと思った表現の工夫（おもしろさベスト1）を選び、紹介する（資料 ）。表現媒体については学習者用端末を用いた Canva のポスターや、画用紙、新聞などを用意し、学習者が自分の表現したい媒体を選択できるようにした。このような学習者による選択は、個別最適な学習活動につながると考えた。

ダブルミーニングがおもしろい！

あらすじ
二人のわかいしんしが西洋料理店に入り、山猫におかしな注文ばかりさ
れ……。
ダブルミーニングが書かれて
いるところ
題名「注文の多い」（客からの、相手からの）や、p137～138「おなか」にお入りください（体の、室内の）

おもしろいと思った理由 ←
2つ以上の意味があるのが、自分的には一番おもしろかったから。もっとないかと探したくなるから。
思ったこと
物語が面白くなる理由は、何回も読めば意味がわかってくるからだと思う。自分も何回か読んでダブルミーニングに気づいたから、作者はダブルミーニングを入れて物語を面白くしているんだと思った。

考えの理由

主体的に学習に取り組む態度おおむね満足 (B)
物語のおもしろさを人物像と結び付けて伝えよう
根拠を明確に自分の考えと理由を伝えよう
としている

根拠となる叙述

資料 表現の工夫のおもしろさベスト1

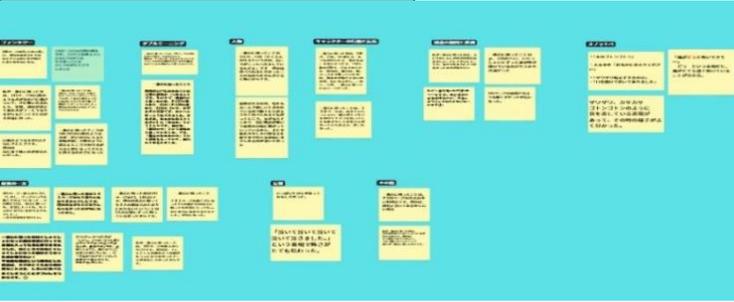
学習者が学びのつながりを意識しながら、見通しをもって主体的に学びを進められる単元計画の作成】

表現の工夫を見つけることができる単元計画

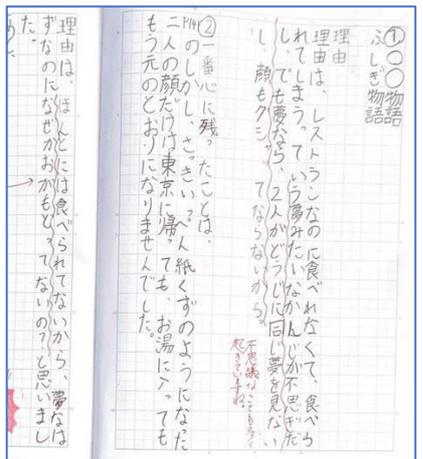
第1時では、題名から想起することを話し合ったり初発の感想として「 物語」と一言で書き表し、そう表現した理由や根拠について考えたりした。これは理由や根拠から物語の不思議なところやおもしろさの大体を捉えることができると考えたためである。また、限られた時間の中で、理由や根拠考える活動に十分な時間を確保するためでもある。初発の感想については、学習者用端末を活用したり、ノートに書いたりするようにし、感想の共有を効率よく行うようにした。Canva のデジタル付箋による自動分類は、一つの付箋に複数の内容を書くと、分類されにくい場合もあるため、簡潔に書き表すことが必要になるこの点を踏まえ、各学級の実態に応じて、ノートやワークシートCanva のデジタル付箋を使い分けることで、効果的に互いの考えを共有することができた（資料 ）。また、前述した「 物語」を一覧表にして可視化し、そこからみんなで考えたい課題を作ることで、主体的に読み進めようという姿勢と共に、学習の見通しをもつことができた（資料 ）。さらに、自然を大事にする作者の考えを取り上げたり、戸の言葉に着目したりすることもでき、次時以降につながる学習となった。

**一次 感想の共有
課題作り**

Canva



資料 第1時 初発の感想（ 物語・不思議や表現）



個々の疑問から
みんなで考えたい
学習課題へ

資料 第1時の板書
「物語」の感想一覧と学習課題

「注文の多い料理店」 みんなが書いた〇〇物語を読もう。

- 不思議な物語
- 不思議が多い物語
- 不思議で現実ではない物語
- 非現実的な物語
- 現実か夢かわからない物語
- ハテナ物語
- まじが逆の物語
- 反対物語
- かんちがい物語
- 人間が山猫に食べられそうになる非現実的な物語
- ほとんど料理にされていられる物語
- 注文が多くてえらい人がたくさんいた物語
- かんちがいの物語
- 言い方がいっしょだけど、意味がちがう物語
- 不気味クレイジーな物語
- おそろしい物語
- こわい物語
- 鳥肌が立つ物語
- あせらすもも物語
- ふつうでは起きない不思議でこわいと感じる物語
- パチあたりな物語
- はじめ少しはつって、いきなりこらしめる物語
- 賢治さんのかつどう、いきなりこらしめる物語

現実と夢?の境目は、どこ?
なぜ、犬が生き返ったのか?
戸の言葉の意味は?
なぜ、二人のしんしは、気付かないのか?
お金が一番大事と思っているのか。(しんし思い)
なぜ、山猫が二人のしんしを食べるのか。(山猫の思い)
なぜ、二人のしんしの顔が元にもどらなかったのか?
作者、宮沢賢治さんの思いや願いは何?
みんなてたくさんのなぞを解いていこう!

視点2 学習者が、主体的に自分の思いや考えをもったり伝え合ったりすることができる学習活動の在り方【学習課題や発問の工夫】

視点1で述べた言語活動を実現するために、単元を以下のように構成した。

検証1 人物像を軸においた指導計画

第一次 第1時 題名読みをし、初発の感想を書く

第二次 第2時 感想を交流し、物語の構成と登場人物の確認をする。

第3時 二人の紳士の人物像について考える。

第4時 戸の言葉の本当の意味について考える (深く考えたい戸を選択し、グループ学習)

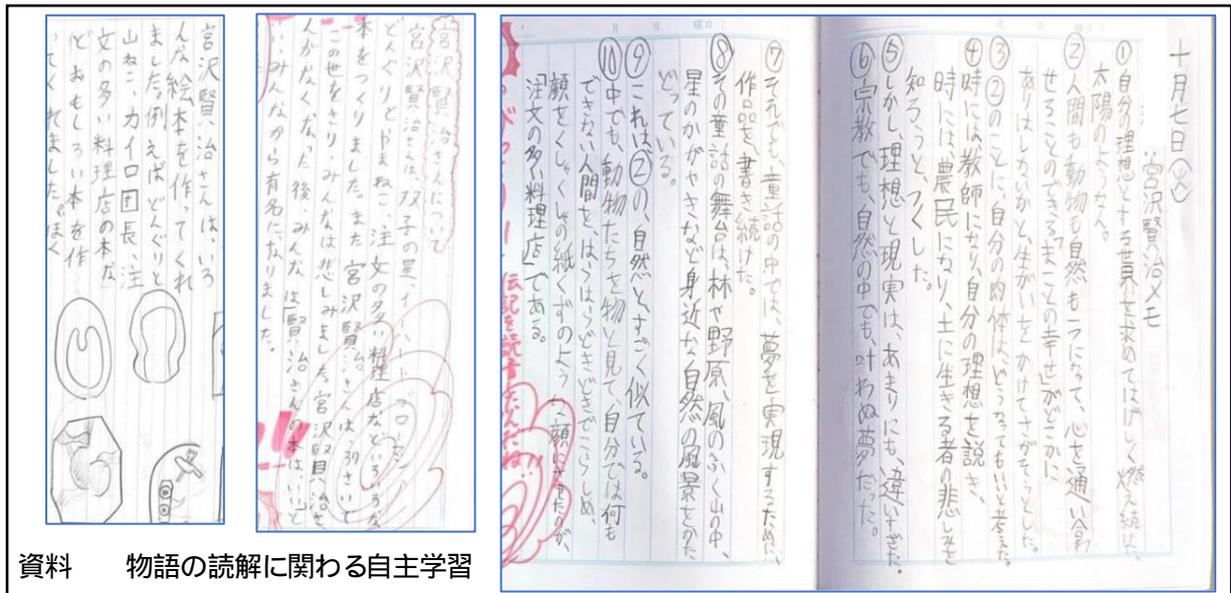
第5時 物語の終わり方について考える【本時】

第三次 第6時 見つけた表現の工夫について振り返る (新聞やプレゼンの作成)

第7時 表現の工夫について交流し、単元全体を振り返る

検証1の第5時の実践から検証2の指導計画の修正の過程について次に述べる。

検証1では、指導者の「二人の紳士はどんな人物だったか」という発問に対して、学習者は「自分勝手でお金のことしか考えていない」と学んだことを振り返り、学習を始めることができた。しかし物語の終わり方についてどう思うのか、そして、二人の紳士の顔だけが元のようなおとなしかった理由についても問うと「恐怖」と「ショック」というキーワードが多く出てきたが、そこから深めること難しかった。そのため指導者は「なぜ、この物語はこのような終わり方なのだろうか」と問うた。すると学習者からは、動物の命の大切さや「自分勝手な紳士をこらしめる」という考えが挙がった。朝の読書タイムなど巻末の宮沢賢治の伝記を読む活動を少し取り入れたこともあり、物語の展開に込められた作者の思いを想像したものだと考えられる。また、物語の内容を読解するにつれて、学習者によっては、自ら図書室で伝記「宮沢賢治」を探して読み進めたり、自主学習で調べたことをノートに書き出したりしていた。それらの前向きに学習に取り組む学習者の姿を学年全体に紹介することで、家庭学習の時間や学校での隙間時間を上手く使い、物語の読解に役立てることができていた(資料)。



検証1 終了後の5年生委員会では、学習者の困り感の要因を分析した。分析の結果、学習者自身が、「なぜこの終わり方なのか」「この終わり方が何を意味しているのか」を考えられるように発問などを再検討した。

そこで、検証2の本時の学習の課題を「終わり方」から「物語が伝えたかったこと」に修正した。第4時には、二人の紳士の人物像を深く考え、本時である第5時に物語が何を伝えたいのかを考えられるようにした。そして、最後の一文を工夫することで、人物の変化のない部分のおもしろさや物語のメッセージ性を感じることができると考えた。

検証2 表現の工夫を讀みの観点として、物語が伝えたかったことを探る指導計画

第一次 第1時 題名読みをし、初発の感想を書く

第二次 第2時 感想を交流し、物語の構成と登場人物の確認をする。

第3時 戸の言葉の本当の意味について考える。(深く考えたい戸を選択し、グループ学習)

第4時 二人の紳士の人物像について考える。

第5時 物語が伝えたかったことについて考える。【本時】

第三次 第6時 見つけた表現の工夫について振り返る。(Canvaで作成)

第7時 表現の工夫について交流し、単元全体を振り返る。

本時では、元に戻らない終わり方をする事で、もっと動物を大事にしてほしいことや反省していないから顔が戻らないという読者目線での時間を多くもち、読み進めることができた。そして、物語に自然や動物など命を大切にしてほしいということを伝えたかったということをクラス全体で確認し、授業を終えた。

しかし、人物の心情の変化の有無について、叙述を基に考えていることが板書から分かりにくくなっていたことが明らかとなった。さらに、表現の工夫である「物語おもしろさパズル」との関連をもっと色濃く出すことはできないかと、検証3に向けて授業の流れや発問を修正することとした。

検証3 表現の工夫を讀みの観点として、なぜ二人の顔が元に戻らなかったのかを考える指導計画

第一次 第1時 題名読みをし、初発の感想を書く

第二次 第2時 感想を交流し、物語の構成と登場人物の確認をする。

第3時 戸の言葉の本当の意味は何かを考えよう。(深く考えたい戸を選択し、グループ学習)

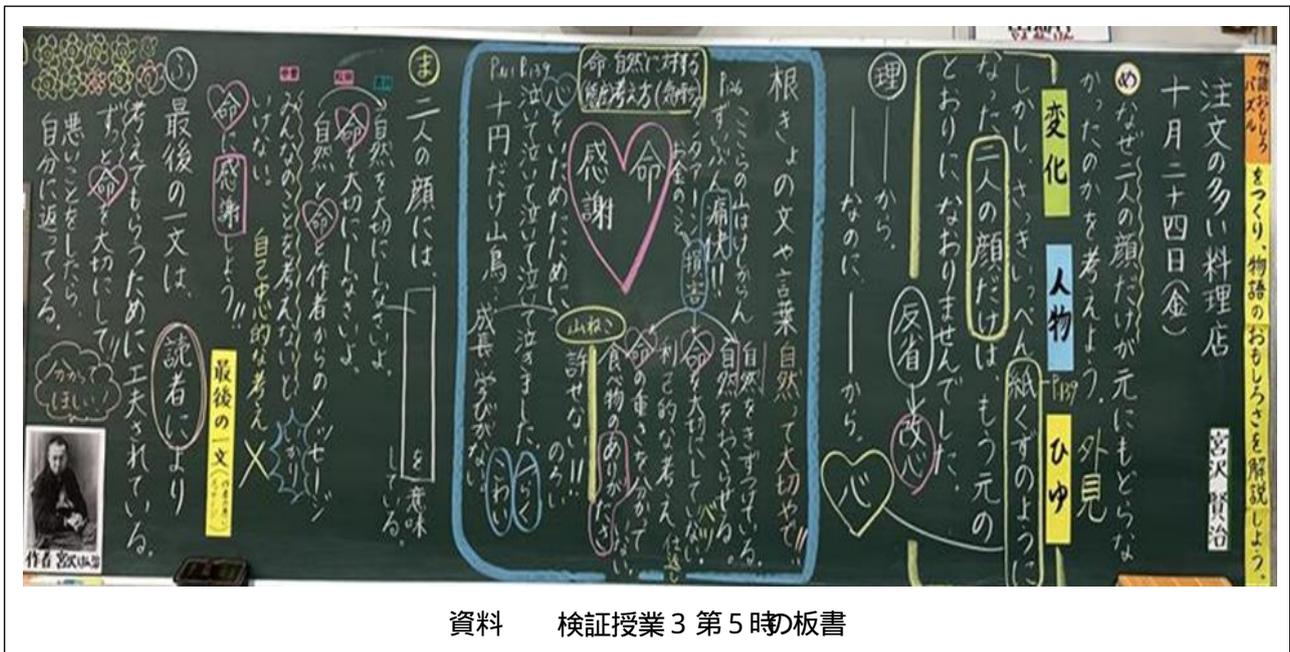
第4時 二人の紳士は、本当に紳士なのかを考えよう

第5時 なぜ二人の顔だけが元に戻らなかったのかを考えよう 【本時】

第三次 第6時 見つけた表現の工夫について振り返る。(Canva、画用紙、ノートなどで作成)

第7時 表現の工夫について交流し、単元全体を振り返る。

検証3では、第5時に最後の一文を音読した後、部分視写を行い、「なぜ二人の顔だけは元に戻らなかったのか」について考えられるようにした(資料)。そして、くしゃくしゃの紙ぐずのようになった二人の顔には、どんな意味が込められているのかについて考えることで、最後の一文を工夫するという物語のおもしろさも見付けることができたと言える。



資料 検証授業3 第5時の板書

学習者のノートからは、「二人の顔には、命の大切さ 感謝の気持ちをもって、自分のことだけ考えるのではなく、いろいろな人の気持ちを考えなさい」という意味があることが書かれており、読者としてこの物語から感じたことを書きまとめることができていた。さらに、振り返りの文章にも、最後の一文は、読者により考えてもらうために作者が意図的に工夫していることを感じ取っていたことが見取れた。これまで出会った物語の学習材にはない人物の描かれ方であることに学習者自身でも気付くことができていた。これを踏まえて、総合研究発表会の分科会 公開授業では、最後の二人の顔にはどんな意味があるのか、や 物語の終わり方を工夫することで、何ができると分かったのか」に時間をかけるようにした(資料)。そして、学習者の学びの成果を発揮する場面となった。指導者と学習者の発言は以下の通りである。

T:最後の一文を工夫することで、どう?

何が分かった?

C1:命がどれくらい大切かを知ることができた。

C2:命を何とも思っていない二人をこらしめることができた。

C2の行動記録

教科書の巻末の伝記を開けて、根拠となる文章を確認しながら発表していた。

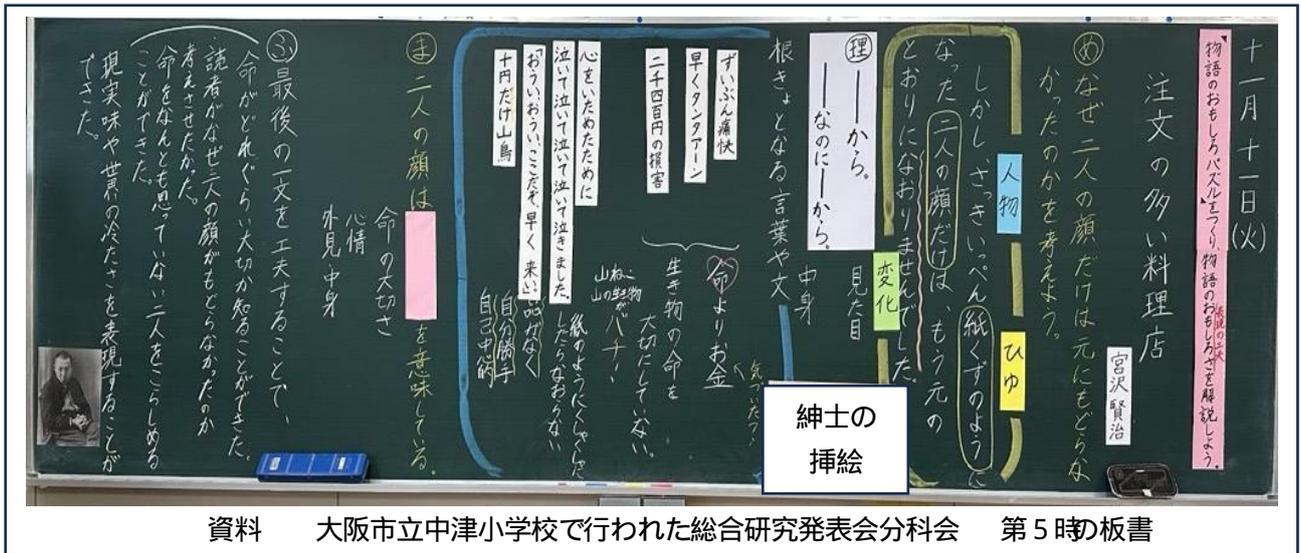
C3:読者に、なぜ二人の紳士の顔が戻らないのか考えさせるためだと分かった。

C4:現実世界や世界の冷たさを表現できると分かった。

C1:やっぱり命やなあ

C5:不思議な世界を味わえると思った。

このように、検証授業3本を経て、物語の表現の工夫に焦点化することで、物語の読み方に変化が生まれ読者目線から作者目線へと広がりが見られた。付けたい力を明確にすること、学習者の思考の流れを円滑にする発問や指示が肝となり、毎時間の学習で表現の工夫を見付けることができた。考えの基になる根拠の文や言葉を大切に、想像だけで読むのではなく、叙述を基に想像を広げて物語を読む力が不可欠となる。



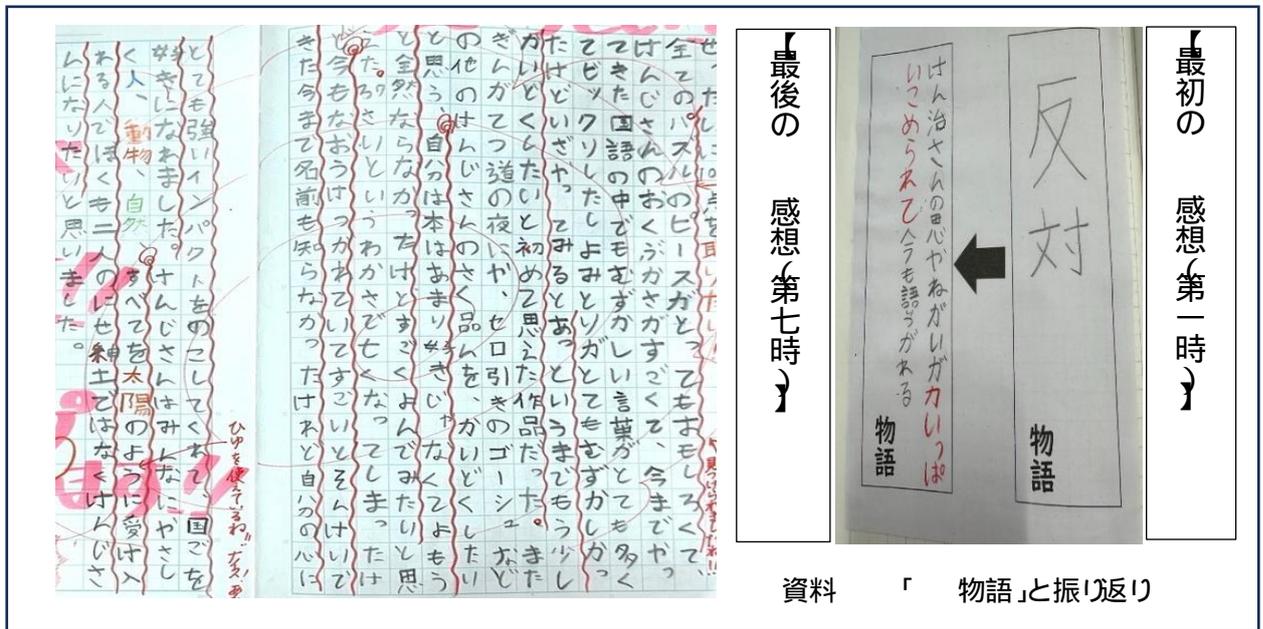
資料 大阪市立中津小学校で行われた総合研究発表会分科会 第5時の板書

【学習者の学びの自覚】

上述した学習計画を基に、第1時と第7時に書いた「物語」表現の工夫、物語のおもしろさを比較させ、自己の考えの変容に気付くことができるようにした。毎時間の学習後の振り返りにおいては、次の点の書き出しを示し、書きたいことを選択させた。

- ・今日の学習を通して、～が分かった。～が不思議に思った。
- ・最初は～と思っていたけれど、～さんの～という考えを聞いて、～と思った。
- ・～さんと交流して、～ということが分かった。～さんに～と伝えたら～と言ってもらえた。

ノートに書き留めたことで、単元末の振り返りを書く際にもページをペラペラとめくり見返しながら、自己の成長に気付き、考えの変容や表現の工夫を見付ける力が付いた姿を見取ることができた。また、第1時と第7時の「物語」を比較し、付けた力も振り返った(資料)。



【個別最適な場での学習活動】

個の学びからグループ学習、そして全体交流へ

学習者が進んで課題解決に向かうことができるように、第3時では深く考えたい戸を選び、視写するという個の学び(一人学び)の時間を設定し、戸の言葉の意味は何かということや言葉に向き合い、山猫側と紳士側の思いについて考える活動を取り入れた。その結果、同じ戸を選んだ者同士の15分間の交流時間には、山猫側と紳士側

の心内語についての考えを交流したり、前後の戸の言葉と比較したりして、戸の言葉の本当の意味について相談しながら考えを広げることができた。グループ交流や全体交流においては、学習者自身が学習課題に対して真剣に取り組み、誰と交流すると課題を解決できるのか、学習者自身で選択したり判断したりすることができるように、指導者はコーディネートし、助言することが必要となる。「教科書のどの言葉や文を基に考えているのか」「根拠は何か」など、楽しいおしゃべりで終わることがないように各グループへ入り込み、指導にあたった。最後の全体交流の場面では、各戸の言葉について分かったことや考えたことを学習者が発表していき、山猫側と紳士側でのずれがあることを理解していった。そして、指導者が「どの戸で二人の紳士が気付いたのか」と問うことで、紳士の人物像の証拠集めの時間にもなっていたと言える。学習者は、「自分だったら塩が登場するまでに気付くや」「戸で気付く。だって……。」とつぶやいたり、クラス全体へ投げかけて意見交流したりする姿が見られた。全ての戸の言葉の一つずつ全員で読み解く方法もあるが、今回は、ダブルミーニングのおもしろさ、表現の工夫に気付けさせることをねらいとしているため、個の学びからグループ学習、そして全体交流という学習の流れにした。授業のまとめを書いている時、学習者から「こんなにわかりやすい戸の言葉なのに、なぜ二人の紳士は気付かないのかな」「どんな人物なんだろう。」とのつぶやきが多かった。

したがって、第3時の学習は、第4時の人物像に迫る学習へと自然なつながりを生み出すことのできる時間となった(資料 3)。



資料 3 第3時の板書とグループ交流の学習者の様子

視点3 国語科の学習と日常生活とをつなげるための手立て

【学習環境の充実】

本を手に取りたくなるしかけ

宮沢賢治の作品を学習前から廊下や教室に設置しておき、手に取りやすい環境を整備(資料 4)。読書ノートを活用し、読書推進活動を1学期から取り組んでいる。学校や家庭での読書の時間を設定し、本のおもしろさや本のよさ、本が生活や人生を豊かにするものであることを指導者が伝え続けるようにしている。

また、宮沢賢治の伝記を要約した動画を視聴したり、道徳科の学習で学んだ『偉人の成し遂げた事柄』に関連させたりするなど作者である宮沢賢治に学習者が興味をもてるようにした。このような取組の結果、学習者が書いた「読書ノート」の内容からは、「読書をすることは自分の考えを広げるために役立つ」と気付いていることを見取ることができた。また、学習者の読書意欲を喚起するためには、指導者が特に読んでほしいページをカラーコピーして廊下に掲示したり、指導者による読み聞かせを行ったりすることも効果的であった。

図書の中には、「味見読書」という取組を行ったところ、表現の工夫に着目して読む学習者が多く見受けられた。「味見読書」とは、3分という短い時間で物語の冒頭部分を読み、まるで味見をするかのように次々と本を回し読みしていくことである。15分間で5冊の本を味見することができて、もう一度手にしたい本を探すことに役立った（資料 ）。

このような「読書ノート」の活用や「味見読書」などの以前からの学級での取り組みと、読解で培った「表現の工夫を見付ける」という力の獲得により、学習者は自ら本を手にして、進んで読書ができるようになっていった。継続した指導が必要ではあるが、読書を身近に感じるきっかけとなる学習活動となった。また、継続の観点を絞って読解を行う学習の効果を読書活動の様子から見取することもできた。「読書ノート」の150冊読了者には、賞状で学習者のがんばりを褒めたたえる時間を設けて、今後の読書活動への意欲付けも行き、本単元を終えた。



<方法>

- 1.自分の前に置いている本を3分間読む。
- 2.一言だけ印象に残ったことや印を書く
- 3.読んだ本を左にいる友だちに渡す。

資料 「味見読書」について

成果と課題（成果、課題）

視点1

読みの観点の明確化により、表現の工夫を意識して、想像を広げて読むことができた。
 着目させたい言葉を学習課題に据え、学習内容を焦点化し複数の叙述を基に考えることができた。
 ICTの活用により、共有が瞬時にでき、効率よく学習を進めることができた。
 評価のルーブリックを作成し、自己評価や他者評価ができるようにする必要があった。

視点2

交流活動の場の工夫を行ったことで、学習意欲を向上させ、学びの自己調整を図ることができた。
 指導者の指導と支援や探究的な学びの在り方を模索し、研究を進めていく。

視点3

学習者が本を手にする環境整備を行うことで、表現の工夫を探しながら読書を楽しむ姿が見られ、学びを生かした読書活動を行うことができた。

学校と家庭で継続的に連携を図り、読書活動を推進していく必要がある。

令和7年度 国語部 6年生委員会の研究
 単元名 「心に残った表現をポスターにまとめよう」
 (中澤晶子「模型のまち」東京書籍 6年)

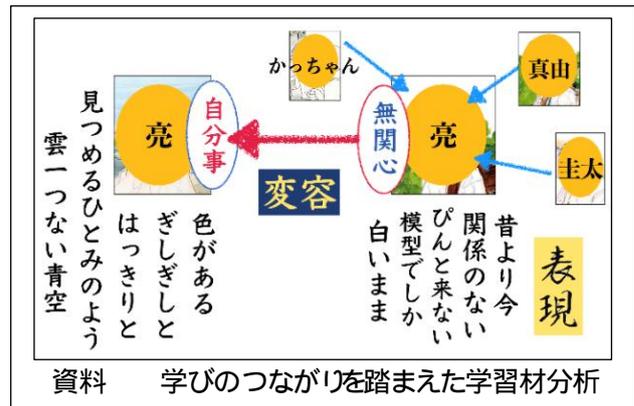
視点1 学習者が「学びのつながり」を意識して学習を進めるための単元構想

【学びのつながりを重視した付けたい力】

【学びのつながりを基にした学習材分析】

教科書に掲載されている本単元の言葉の力は、「表現の効果をとらえる」である。「表現に着目して読む」という系統性で見ると、5年生で学習する「注文の多い料理店」の次の単元として位置付けられている。学習者は、これまでに扱ってきた物語の学習材を通して、「情景描写」「色彩表現」「二つの意味(ダブルミーニング)」「反復」「比喩」、そして「現実」「ファンタジー」「現実」というような物語の構造について学習してきた。本単元で扱う学習材「模型のまち」においても、こうした表現の工夫がどのように表れ、どのような効果をもたらしているのかについて、6年生委員会で学習材分析を行った。

本学習材「模型のまち」は、中心人物の「亮」が母の転勤でひろしまのまちに転校し、「模型のまち」の制作を手伝うことから出来事が始まる。周辺人物の真由やその兄の圭太、そして夢の中での「かっちゃん」たちとの出会いによってひろしまのまちや平和と戦争に対してあまり関心をもてなかった亮が、自分事として捉え直す物語といえる(資料)。



中心人物の変容を表す表現は、物語の随所に散りばめられている。例えば、「昔より今の学校生活」「びんと来ない」「模型のまちは白いままねむっていた」などは変容前を表す表現である。一方で、「白じゃない。色がある」「亮にはそれがはつきりわかった」「亮を見つめるひとみのよう」などの表現は、亮が平和と戦争を身近なものとして捉えた後の表現といえる。また本学習材には、こうした表現の他に、反復される「ビー玉」や「いま、むかし、いま、むかし」など、暗示的な表現が数多く見られることが、学習材分析の結果明らかになった。

【単元目標を達成した学習者の姿を明確にした単元計画】

【学習材の特性 付けたい力の具体化 言語活動の設定へ】

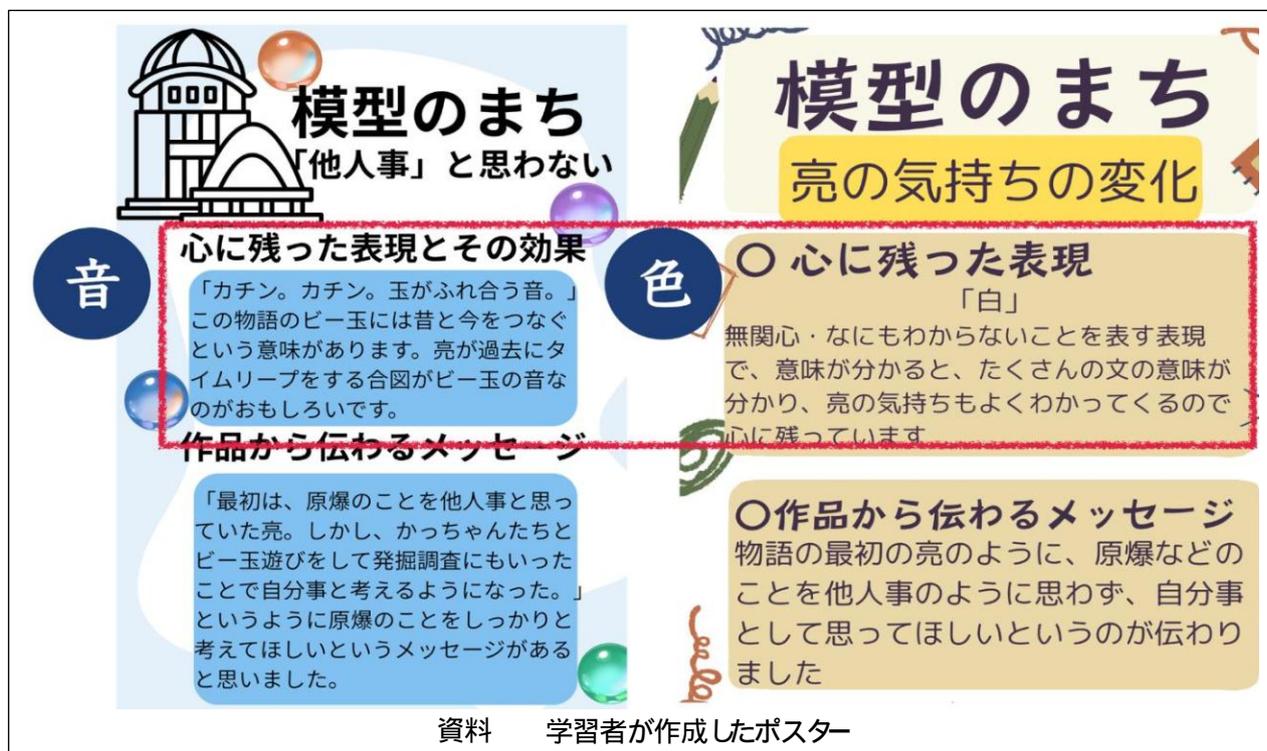
前述のように、本学習材には、「白」「色があった」「ビー玉」「いま、むかし、いま、むかし」など数多くの表現の工夫がある。こうした表現の工夫は、その表現のみを取り出して意味を考えるのではなく、人物の変容と関係付けることで、それぞれの表現が物語の中でどのように意味付けられているかを捉えることができると考えた。

そこで、本単元での付けたい力を、「人物の変容と表現を関係付け、表現から分かることを捉える」と設定した。また、付けたい力をより具体的に考えるために、学習指導要領に記載された「指導事項」とそれを「達成している学習者の姿」を関係付け、以下のように整理した。

	学習指導要領における指導事項	単元目標を達成している学習者の姿
	付けたい力 人物の変容と表現を関係付け、表現から分かることを捉える	
知	比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。(C(1)ク)	題名や繰り返し出てくる言葉に着目することで、亮の変容に関係する色彩語や比喩表現を見付け、サイドラインを引いている。
思	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。(C(1)エ)	繰り返し出てくる「ビー玉」「模型のまち」「白」などの表現の意味を考えたり、それぞれの表現と人物の変容を結び付けたりしながら、表現の効果捉えている。
思	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。(C(1)オ)	「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」の観点を活用し、人物の変容と「ビー玉」「模型のまち」「白」などの表現を関係付け、表現の効果をもとめてポスターにまとめている。

これを基に、付けたい力に適した言語活動として、「心に残った表現ポスター」を設定した。この言語活動は、「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」の2点について考え、まとめる言語活動である。

学習者が実際に作成した表現ポスター（資料）を見ると、音や色を表す表現に着目し、その表現どのような意味があるのかについて、学習者自身の言葉でまとめていることが分かる。



このポスターは学習者用端末を活用し、Canva や Google Classroom、ロイロノート・スクールなどで作成するようにした。学習者用端末を活用することで、困っている学習者が、作成の過程で他者の考えや表現を参照しながら自力でまとめることができた。また、単元終了後は、成果物を印刷し、教室後方に掲示することで、休み時間等に級友同士でポスターを鑑賞し合い、作品から伝わるメッセージは着目する言葉に応じて違いがあることに気付くことができた。

付けたい力により焦点化した単元計画

前述のように、付けたい力を具体的に想定し、第三次の言語活動を設定した。

この第三次の言語活動から、学びのつながりに留意し、表現を捉える力が身に付くよう三次、二次、一次というように、学習活動を逆向きに設計し、付けたい力により焦点化した単元計画を立てるようにした。単元計画は、右に記すよう全6時間で構想した。

少ない時間数の中で、「表現」に焦点化した学習展開にするためには、指導者だけでなく、学習者自身も学びのつながりを意識することが重要である。そのための手立てとして、単元導入時に既習事項の意図的な振り返りを行った。

第1時では、教科書に掲載されている「言葉の力」を学習者と確認するとともに、既習の表現の工夫について振り返るようにした。指導者が、「これまでに学んできた表現の工夫には、どのようなものがありますか」と発問することで、既習の「情景描写」「比喩」「色彩語」などの学習用語を想起できるようにした。もちろん、この発問で、既習事項を振り返ることが理想的ではある。しかし、学級の実態によっては難しい場合が考えられる。そこで、6年生委員会では、指導者が事前に作成したスライド（資料）を基に、既習の学習用語が、これまでの学習材の中でどのように表されていたのかを振り返ることができるようにした。このことにより、学習者がこれまでの学習材と、本単元の学習材との学びのつながりをより明確に意識することができた。

第一次	・学習の見通しと初発の感想
第二次	・構成の整理 ・無関心だった亮について考える ・亮の変化について考える
第三次	・ポスターをつくる ・単元を振り返る

挿絵	挿絵	挿絵
情景描写	色彩表現	二つの意味
あかつきの光が、小屋の中に、すがすがしく流れこんできました。 大造じいさんとがん	青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。 ごんぎつね	さあどうぞ、おなかに お入りください。 注文の多い料理店

資料 既習内容を想起するために指導者が作成したスライド

資料 学習用語の掲示(左)と板書(右)

(カ) 表現の効果を捉える。

情景描写、色、比喩、語順の入れかえ、反復

スライドを基に振り返った「二つの意味」「色彩表現」「情景描写」などの学習用語は板書し、学習者がいつでも見返すことができるように壁面掲示に残すようにした(資料)。

このように、既習の学習用語を目的に応じて振り返り、本単元で活用できるようにすることで、学習者のほとんどがその後の初発の感想で、「じっと見つめるひとみのようだった」といった比喩、雲一つない青空」という情景描写、繰り返される「白」や「ビー玉」などの表現に着目することができた。

具体的な学習者の初発の感想やその分析については、視点 Ⅱ項目で詳述する。

【評価基準と学びを自覚したり調整したりするための振り返り】

評価の基準を明確にする

資料 学習者 A のノート

評価については、昨年度同様に、「何がどこまでできていればおおむね満足できる状況(B 評価)」なのかという評価基準を設定している。これは、先述の「指導事項」とそれを達成している学習者の姿を関係付けて整理した表を基に作成した。詳しい「評価基準」については、巻末に掲載した指導案を参照していただくとし、ここでは学習者のノー記述をもとに、思考・判断・表現を指導者がどのように評価したのかを見ていきたい。

思考・判断・表現の評価基準は、「繰り返し出てくる『ビー玉』模型のまち『白』などの表現が意味することを考えたり、それぞれの表現と人物の変遷結び付けたりしながら、表現の効果を捉えている」である。

左に示す学習者 A (資料)は、「白」という色に着目している。ノートの表には上半分に「白」に関係する表現を抜き出し、下半分にその表現が意味することについて考えた内容をまとめている。この学習者 A は、亮の中で、まちは目の前の模型でしかなく、白いままねむっていた」という表現と、「白じゃない、色がある」

という表現を書き出し、それぞれを「目の前の模型が実際に昔あったのかが信じられない亮の気持ち」と「昔の広島のことを知れたから色がついた」と記述している。ここから、「白」は「未知 ぼんやり 曖昧のような意味がある」と解釈し、この物語において「白」という表現がもつ意味を捉えることができたと判断できる。

このように、人物の変容と表現を関係付け、その表現の意味することを捉えていることが分かるため、この学習者Aの評価を「おおむね満足できる状況(B評価)」とした。

また、注目すべきは、この学習者Aが振り返りに「友達の意見に納得した」と記述している点である。この「友達の意見」とは、先述した「目の前の模型が実際に昔あったのかが信じられない亮の気持ち」である。こうした振り返りや級友との交流の仕方については、次の振り返りの4観点や視点20項目で詳述する。

振り返りの4観点

学習者が、学びを自覚したり、調整したりするためには、自身の学びを客観的に捉えること、つまりメタ認知することが重要である。このメタ認知を促すために振り返り際には観点を提示することが有効だと考えた。

6年生委員会は、学習者の学びの自覚や調整を促すために、これまでの国語部の実践を基に以下の四つの観点を設定した。なお、この四つの観点を文は、佐藤亜耶氏(子どもと創る国語の授業 Web)の提案を参考にしている。

授業前後の考えの変化(初めは～と考えていたけれど、～に考えが変わった。)
交流して分かったこと(～さんの～という考えを聞いて、～だと考えた。)
新しい発見や疑問(今日の学習で～が分かったが、～が分からなかった。)
友達にアドバイスしたことされたこと(～さんが困っていたので、～と言った。)

これら四つの観点全てについて振り返るのではなく、四つの中から選択して振り返ることで、学習者が学びの自覚や調整を図ることができるようにした。

以下に示すのは、第4期学習後に、「授業前後の考えの変化」を選択した学習者Bの振り返りである。

学習者Bの振り返り

白は(初めは)亮の性格のことかなと思ったけど、白は亮の知らないこと、未知であることを表している
と思った。暗示や象徴が、この文章の「白」には多いと思った。

この記述から、学習者Bは「白」という表現が、最初は亮の性格と思っていたが、学習後には亮の人物特徴を表すことだと捉え直していることが分かる。ここから、自身の考えの変化を捉え、言葉に対する認識を高め、学びを自覚していると判断することができる。

また、「白」という表現について、「暗示や象徴が多い」と記述している。「白」という言葉が表すイメージと中心人物の「知らない」「未知」といった複数の意味を重ね合わせることで、「白」には「暗示や象徴が多い」と解釈していることが分かる。

また、次に示すのは同じく第4期で「交流して分かったこと」を選択した学習者Cの振り返りである。

学習者Cの振り返り

最初は、何も思わなかったけど、友達と考えると、白いままねむっていたは、亮の気持ちを表している
と考えることができた。

自身の考えの変化を記述している点は、学習者Bと同様であるが、注目すべきは、この学習者Cが「最初は何も思わなかったから分かるようになりたい」という内発的な動機を経て、「友達と考える」という学習方法を選択し、自分の考えに生かしている点である。級友とともに考えることで、「白いままねむっていた」という表現の意味に気付いたと、学びを振り返っていることが分かる。こうした記述から、学習者Cは自身の学びを自覚するだけでなく、学びを調整していたことも見取ることができる。

こうした学習者の学びの自覚や調整には、主体的に学ぶことが欠かせない。先述の学習者Cも、「友達と考える」という学習方法を選択することで、主体的な学びの実現につながったといえる。そこで、次項からは、主体的な学びを促すための取組とその成果について見ていくことにする。

視点2 学習者が、主体的に自分の思いや考えをもったり伝え合ったりすることができる学習活動の在り方
【学習者が進んで課題解決に向かうことができる学習課題】

表現に着目する観点提示

視点1では、単元導入時に教科書に掲載された言葉の力を確認し、「情景描写」や「色彩表現」など、表現についての学習用語を意図的に振り返る機会を設けたことを述べた。この振り返りの後、観点を提示し、初発の感想を書くようにした。提示した観点は、次の三つである。

気になった表現とその理由 不思議に思ったこと 作品から伝わってきたこと

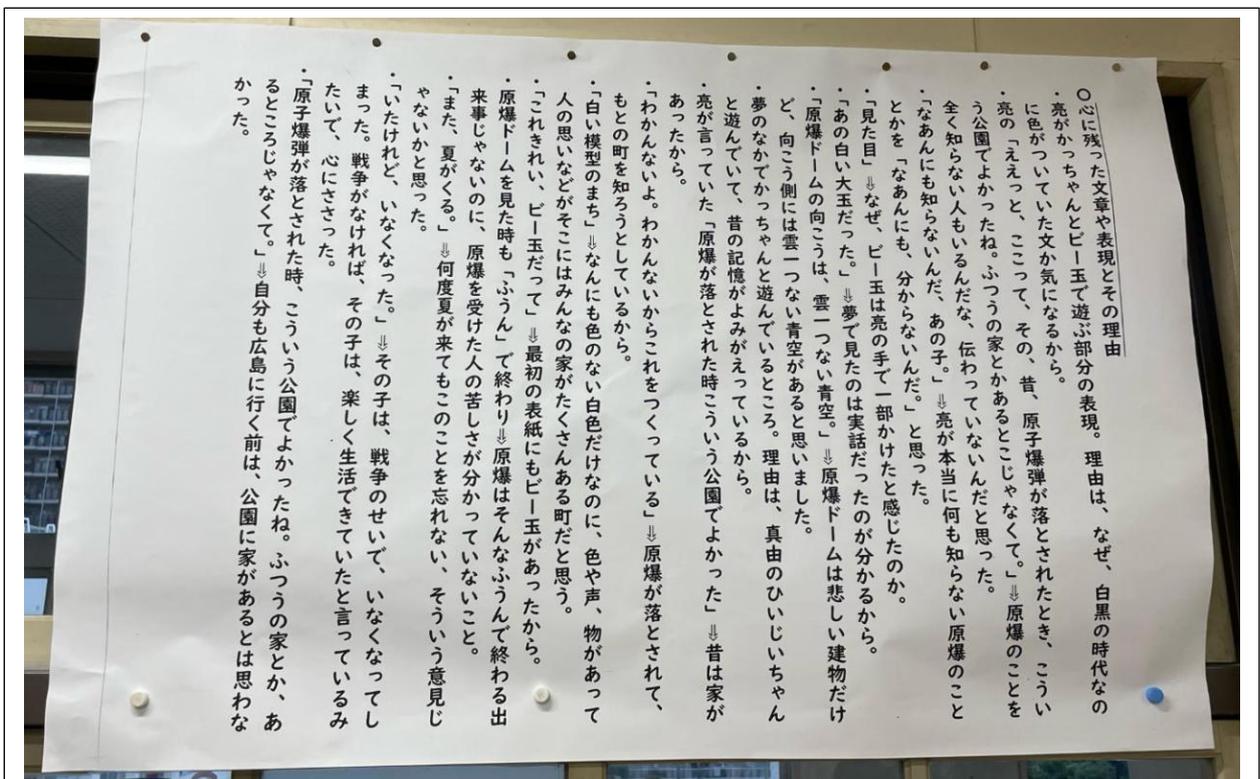
三つの観点を提示することで、学習者は以下に示すように、表現に着目した初発の感想を書くことができた。

学習者の初発の感想（一部抜粋）

- ・ 亮の中で、まちは目の前の模型でしかなく、白いままねむっていた。その後の「ちゃんとふつうに色があった」の表現が対照的に感じた。
- ・ 模型をいろいろな色でぬってもいいのに、なぜわざわざ白いなのか。ましがひらがななのも気になった。
- ・ なぜ、ましがひらがなののか、と思った。
- ・ 原爆ドームの向こうは、雲一つない青空「このまちに、また夏がくる」というところで、戦争がない、平和なまちが続くということが伝わってきた。
- ・ いま、むかし、いま、むかしは最初の方に出てきた表現で、どんな意味なんだろうと思ったし、そのあとのあのまちを思い出すとどうつながるのか気になった。

学習者は色彩表現や比喻、情景描写や反復などの表現に着目し、気になった理由を書くとともに、対になる表現に着目したり、表現と表現とを結び付けて考えたりしていることが分かる。このように既習内容を意図的に振り返り、初発の感想では上記の三つの観点を提示することで、多くの学習者が表現に着目した初発の感想を書くことができた。

また、初発の感想は、教室に拡大掲示（資料）することで、級友が気になった表現についても目にするができるようにした。そして少ない時間数の中でも表現に着目した学習展開につなげることができた。



資料 初発の感想の拡大掲示

対比 関係付けが見える構造的板書

第3時と第4時は、中心人物の変容と表現の意味を捉える学習に取り組んだ。

この第3時では、黒板の上半分に変容前の亮のことが分かる表現を書き出し、その表現が意味することを下側に板書するようにした(資料)。ここでは、表現は短冊に、意味はチョークで板書するようにした。

資料 表現とその意味についての整理

学習者は、「自分には関係のない」「原爆ドームを見ても『ふうん』で終わり」などの表現から、亮が平和や戦争に関して無関心であり、無知であるということ捉えることができた。また、この物語では「白」という表現が、「亮の無関心」や「想像ができない」「何もわからない」ことを表していると意味付けし、人物の特徴と結び付けて解釈することができ、全体で共有することができた。

これを踏まえ、第4時(本時)では、前時で学習した亮の変容前が分かる表現とその意味を黒板の右側に板書し、本時で扱う変容後が分かる表現を左側に板書するようにした(資料)。

資料 対比 関係付けが見える構造的板書

資料 のように、黒板の左右で板書内容を意図的に分けることで、人物の変容や表現の移り変わりが、右から左にかけて順に理解できるようにした。こうした板書の構造化により対となる表現を結び付けたり人物の変容と表現を関連付けたりすることができた。

学習者は「みんな白」と色があった」という色に関係する表現から、ひろしまのまちに「無関心だった亮」に「関心が出てきた」ことを読み取り、昔の出来事より今の学校生活」と時間がぎしぎしと逆戻り」という表現からは、亮のまちへの認識の変化を捉えることができた。

このように、人物の変容と表現を結び付けたり、複数の表現を関係付けて表現の意味を解釈したりすることによって、「亮が戦争に関係する知識や情報を、自分事として感じるようになった」という人物の変容を的確に捉えた学習者の発言を引き出すことができた。

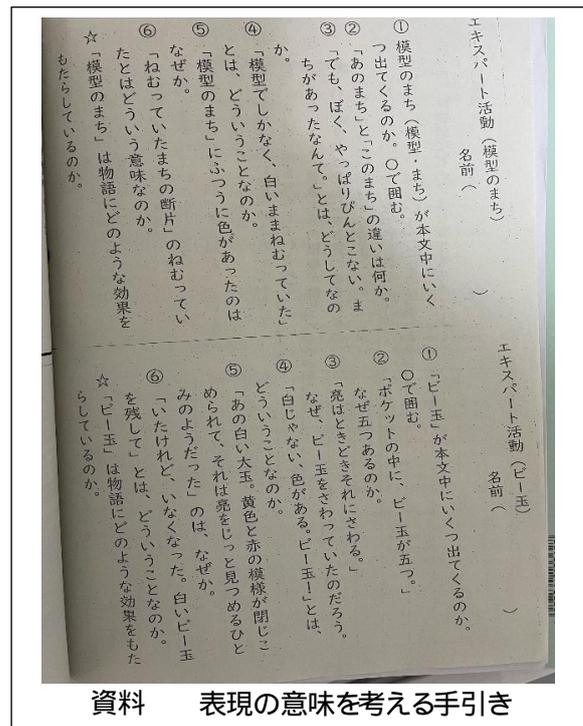
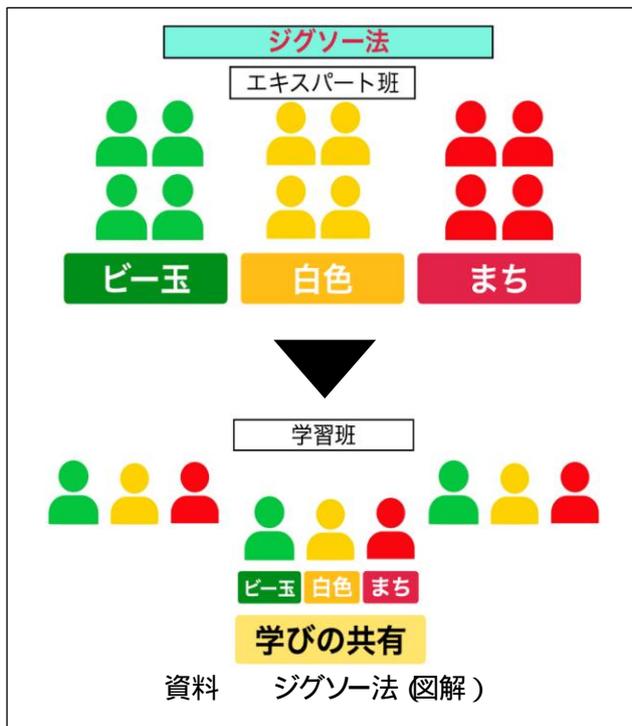
課題解決に向かって自らの学び方を選択できる方法の工夫】

学びの選択で「学びの調整」を促す

前時と本時では、学習者が主体的に学習に取り組むことができるように、学習者自身の学びのニーズに合った学び方を選択できるようにした。それが、「ジグソー法」と「学びの選択」である。

検証授業 1は、ジグソー法を取り入れて実践を行った。ジグソー法とは協働学習の一つである。本単元では、学習材の中で繰り返される「ビー玉」「白色」「まち」の三つの表現に焦点を当て、ここから学習者が自身の興味・関心に沿って一つを選択する。その後、選択した学習者同士で「ビー玉班」「白色班」「まち班」の三つのエキスパート班をつくり、協働的に考えることができるようにした。エキスパート班で表現の意味を考えた後、再度学習班に戻り、エキスパート班での学びを共有(資料)したことで、学習者の考えを深めたり、広げたりすることができた。

また、エキスパート班での活動の際、困っている学習者やグループには指導者が表現の意味を考えることができるよう手引き(資料)を用意し、学習者の考えの手立てになるようにした。



検証授業 2は、学び方を選択できるようにした。学習者によっては、(ア)考えが浮かばないから級友の考えを参考にしたい、(イ)自分の考えを記述した後、級友と同じか、違うかを確認し自信をもって発表したい、(ウ)異なった考えに対して、どこが違うのか、なぜ違うのかを知ることで、考えを深めたいなど、学びのニーズが異なる。こうしたニーズを満たすために、6年生委員会では学びの選択として、以下の四つの選択肢を設定した。

- 一人で考える 話し合いながら考える 友達の考えを聞く 友達の考えを確かめる

選択した学び方は、ホワイトボード等を用意し、そこにネームカードを貼ることで、誰がどの学び方をしているのか、「見える化」(資料)するようにした。この「見える化」によって、級友同士で話し合ったり、考えを聞き合ったりするといった、学習者の主体的な姿を引き出すことができた。



資料 選択の見える化

学習者個々のニーズに適した学び方を選択できるようにすることで、学習者は誰とどのような学びをするのか、誰のもとに意見を聞きに行こうかという主体的な学習活動へつながったと考えられる。

このように、学級の実態に応じて「ツグソー法」か「学びの選択」のどちらかを学習活動に取れることで、先述の学習者 A や C の振り返りのように、級友の意見と自分の意見を関係付けた、読みの深まりを見取ることができた。

視点3 国語科の学習と、日常生活とをつなげるための手立て

読むことの楽しさを実感するための関連図書

国語の学習を通して学んだことを日常の読書活動につなげていくことが大切になる。そのために関連図書を教室に置くことで、読書の広がりやねらうようにした。関連図書は、同じテーマの物語や同一作者のものだけでなく、広く平和や戦争に関連する図鑑、資料等も置くようにすることで、休み時間等に複数の関連図書を読む学習者の姿を見ることができた。

最後に、第6時で単元全体を振り返った学習者 D の記述を見てみよう

学習者 D の振り返り

今までは一つ一つの文やキーワードについてあまり考えていなかったけど、一つ一つがどういう意味かを考えることができた。また、それによって、一つ一つのキーワードは、何をとらえてほしいの、作者がこめた思いも文や言葉の中にあることが分かった。

言葉の辞書的な意味を理解するにとどまっていた学習者 D だが、本単元の学習を通して「一つ一つ」の言葉の意味を考えることができ、そして、言葉の中に「作者がこめた思い」があるという認識にまで至っていることが分かる。こうした表現の意味付けや作者の思いを知ろうとする学習者の記述は、今後の読書の充実を期待させるものといえるだろう。

成果と課題（成果、課題）

視点1

学習材の特性から付けたい力を具体的に想定することで、「表現を読む」ことにより焦点化した単元構想ができ、少ない時間数の中でも学習者は色や音などの表現の意味を考え、読みを深めることができた。

振り返りの4観点を提示することで、学習者は自身の学びを自覚したり、調整したりすることができた。

振り返りには、学習者が選択した学び方や交流形態自体がそれでよかったのかどうか（その学び方・交流の仕方でもよかったか）を振り返る観点を設定することで、学びの選択の有効性を学習者自身が客観的に把握できるようにする必要がある。

視点2

学びの選択で主体的な活動を引き出すことができ、対の表現を見付けたり表現同士を関係付けたりすることで、学習者の多様な考えを引き出すことができた。

板書の構造化によって対比や関係付けが見えるようにしたことで、人物の変容と表現を関係付けて捉えることができた。

表現を書き出し、物語の中での意味を考える活動が生活活動になってしまったため、学習者の思考を深める発問研究にまでは至らなかった。次年度は発問研究を深める必要がある。

視点3

関連図書を設置することで、単元で学んだことを普段の読書生活へとつなげることができた。

学びが、普段の読書にどのようにつながっていったのか、継続的に分析する必要がある。

令和7年度 高学年委員会 資料

以下の資料は、「小学校教育研究会 国語部」のホームページからダウンロードすることができます。



- P117 「注文の多い料理店」指導案
- P126 「注文の多い料理店」学習材分析
- P127 「模型のまち」指導案
- P140 「模型のまち」学習材分析
- P145 「模型のまち」教材研究シート
- P146 「模型のまち」エキスパート活動てびき

5年 国語科学習指導案

授業者 大阪市立みどり小学校 阿比留 聖嗣
 授業者 大阪市立春日出小学校 長谷 拓朗
 授業者 大阪市立鶴見南小学校 齋藤 敬子
 授業者 大阪市立中津小学校 松永 宏太郎

- 1 日 時 令和7年 9月26日(金)第6校時(14:45~15:30)
 令和7年 10月14日(火)第6校時(14:30~15:15)
 令和7年 10月24日(金)第6校時(14:45~15:30)
 令和7年 11月11日(火)第5校時(14:00~14:45)

- 2 学年組 第5学年1組(在籍 33名)
 第5学年2組(在籍 34名)
 第5学年1組(在籍 37名)
 第5学年2組(在籍 36名)

3 単元名 物語おもしろ パズルをつくり 物語のおもしろさを解説しよう
 (宮沢賢治「注文の多い料理店」東京書籍 5年)

4 単元目標

- (1)二人の紳士の変化や表現の工夫(比喻や反復)に着目し、物語のおもしろさを解説することができる。
(知識及び技能) (1)ク
- (2)二人の紳士の人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の工夫を考えたりすることができる。
思考力、判断力、表現力等) C (1)エ
- (3)二人の紳士の人物像について描写を基に捉え、自分の考えを書きまとめることができる。
思考力、判断力、表現力等) C (1)イ
- (4)物語の表現の工夫のおもしろさを見つけ、伝えようとする。
学びに向かう力、人間性等)

5 単元間の関連と系統

前単元(4年10月)

本単元(5年10月)

次単元(6年10月)

学習材 「一つの花」 場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化、情景について叙述を基に想像して読む。	学習材 「注文の多い料理店」 登場人物の変化や表現の工夫を探しながら読み、物語のおもしろさを書く。	学習材 「模型のまち」 物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりする。
---	---	---

6 単元で取り上げる言語活動

表現の工夫を読み取り物語の魅力を自分の言葉で伝える力を付けるために、言語活動「物語おもしろパズル」を設定する。

この活動では、物語の表現の工夫をパズルのピースに見立て、友達や家族にそのおもしろさを伝える。各時間で見つけたおもしろさを新聞やプレゼンなどで解説し、どのように伝えようかと効果的かを考えることで、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学習につながる。擬音語、擬態語、擬声語、色彩語、比喻、反復、複数の意味が込められた言葉、ファンタジー特有の構成や題名などに着目することで、表現の巧みさやおもしろさを多面的に捉えることができる。

学習者が物語のおもしろさを伝え合う喜びを 共有でき、自己有用感をもつことができる言語活動である。

(関連 思考力 判断力 表現力等) C(2)ウ)

7 評価規準

知識 技能	思考 判断 表現	主体的に学習に取り組む態度
二人の紳士の変化や表現の工夫(比喻や反復)に着目し物語のおもしろさを解説している。 (1)ク)	二人の紳士の人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の工夫を考えたりしている。 (C(1)エ) 二人の紳士の人物像について描写を基に捉え、自分の考えを書きまとめている。 (C(1)イ)	物語の表現の工夫のおもしろさを見つけ、伝えようとしている。

8 指導にあたって

【学習者観】大阪市立みどり小学校

本学級の学習者たちは物語の学習に対して、楽しみながら取り組んでいる。第五学年の第一教材である「おにぎり石の伝説」では、中心人物のこだわりから物語が動き出し、物語の終末ではそのこだわりが解消されていくことを学習し、どのように解消されていったのかということを読み取ることで、物語の読み方の基礎を学習した。そして、学習者用端末の録音機能を活用し、嬉しい、楽しいなどのプラスの気持ちを表現する時には高い大きい声で読んでいるのか、悲しい、不安などのマイナスの気持ちを表現する時には低い小さな声で読んでいるのかを学習前の音読と学習後の音読を比較し、メタ認知をはかっていた。

第二教材である「世界でいちばんやかましい音」では、学習前にく返しの表現の効果を確認するために、第一学年の「サラダで元気」をプレ教材として一時間扱った。この教材を学習することで、く返しの効果によって、中心人物であるえっちゃんが望んでいるサラダがだんだんできあがっていく様子やそれに伴う中心人物えっちゃんの気持ちの高まりを読み取り、中心人物のこだわりが結末では解消されていくことも確認することができた。「世界でいちばんやかましい音」では、中心人物であるギャオギャオ王子の人物像とこだわりを読み、結末でそのこだわりが解消されていく様子とギャオギャオ王子の変容を読み取っていた。そして、変容のきっかけになる出来事やく返しの効果による世界中の人々への情報の伝わり方を図式化しながら考えていった。

【学習者観】大阪市立春日出小学校

5年生の6月には、物語文「世界でいちばんやかましい音」の学習に取り組んだ。「世界でいちばんやかましい音」では、物語の全体像をとらえ、物語の中で大きく変化したことについて考えたことを話し合った。その際、中心人物ギャオギャオ王子の始まりの場面と山場の場面での心情の変化やガヤガヤの町の始まりの場面と終わりの場面を比べた。物語の各場面が山場や物語全体にどのように関わっているのかを本文の叙述と結び付けながら考えることができた。このように、物語の変化について、叙述を基に捉えたり、場面の役割を考えたりしながら物語を読み進める経験をした。学習課題に対する自分の考えを積極的に発表する姿が多く見られた。

また高学年では、学習の手立てを学習者用端末に提示するようにし、授業の見通しをもつことができるようになってきた。話し合いの際には、授業の理解度別にグループ分けを行い、話し合う力の向上とグループ交流の充実を図りながら、どの学習者も意欲が高まってきた。

一方、級友に自分の意見を伝えることやノートに自分の意見を書くとなると手が止まってしまう学習者が多かった。

【学習者観】大阪市立鶴見南小学校

第一教材4月物語教材「おにぎり石の伝説」から、初発の感想を基にして読みの課題を解決していく中で、疑問や謎を解く楽しさを感じることができつつある。「おにぎり石の伝説」は、場面の構成が明確で会話文の多い教材である。そのため、人物の心情を捉えやすく多くの学習者が音読で心情を表現することができていた。中心人物と対人物の関わり「おにぎり石」というキーアイテムと題名との関連、一人称視点で描かれた物語から

学習者は「よく」に自分を重ね合わせながら共感的に理解し読んでいった。そして、価値観が揺れ動く多感な時期である学習者の心に、周りに流されてしまう部分を自覚したり、このおにぎり石ブームで起きてしまったことに違和感をもったりするなどの思いが残ることによって、この物語の主題「上下関係なく互いに支え合ったり、助け合ったりすることのできる学級集団になることが大切」「とげとげしい言葉や荒々しい行動ではなく居心地の良い関係を築けるように言葉をかけたり行動したりしよう」という考えに辿り着くことができた。春の運動会練習である集団活動の学習につながることができた児童が多かった。

第二教材6月の「世界でいちばんやかましい音」の学習では、人物像や山場を通しての物語の変化について理解を深めることができた。王子様はどんな人物なのか、結末場面から町の名前を変えなかったのはなぜか、などの初発の感想から疑問を解決するために、物語の内容を丁寧に読み取るようにした。会話文の中に描かれていた王子の自己中心的な発言に着目したり、オマトペやリフレイン（反復）などの物語のおもしろさである表現の工夫を発見したりして、作者のすこ技に気付くことができていた学習者が多かった。物語をおもしろくしている作者のすこ技を一年間通して探していこうという気持ちも芽生えつつある。

しかし、表現することにおいて課題がある。国語が好きではない学習者や長文を読んだり書いたりすることに抵抗感があり学習意欲のやる気スイッチが入りにくい学習者がいる。また、黒板に書かれた内容をノートに視写することに集中しすぎて、全く発言をしない学習者もいる。

【学習者観】大阪市立中津小学校

第5学年の児童は、これまで主に物語教材に取り組み、初発の感想から生じた疑問を手がかりに、登場人物の心情の変化や出来事、表現の工夫に着目して読みを深めてきた。

4月教材「おにぎり石の伝説」は、場面の構成が明確で会話文の多い教材である。そのため、人物の心情を捉えやすく多くの児童が音読で心情を表現することができていた。児童は「僕」に自分を重ね合わせながら「おにぎり石を思わずじっとにらんだのはなぜか？おにぎり石ブームとは？」という問いを解決していきながら、物語の中に現されている価値観や願いを自分の生活と結び付けて捉えようとする姿も見られた。

6月教材「世界でいちばんやかましい音」の学習では、王子様はどんな人物なのか？王子様のプレゼントは静かな音になったのか？という初発の感想で出た問いを解決しながら、人物像や山場を通しての物語の変化について考えたり、表現の工夫（オマトペや反復表現）に注目し、登場人物の感じ方の違いを読み取ったりしながら学習を行った。音の変化を通して心情の変化を想像したり、はじめと結末の場面を比べ合ったりすることで、物語の変化について理解を深めると共に言葉の響きや表現の持つ「おもしろさ」を感じることができた。

しかし、語彙や表現が十分でない児童、発表に不安をもつ児童は、自分の考えを言語化することに消極的になりやすく、発言が特定の児童に偏る課題が見られる。

【単元観】

本単元では、擬音語、擬態語、色彩語、比喩、反復、複数の意味が込められている言葉、構成や題名などの表現の工夫に着目して解説文を書くこと、そして、その考えを共有することを通して、表現のおもしろさに気付いたり理解したりする力を育てることをねらいとしている。

本学習材では、恰好や名誉といった見た目ばかり気にかけている二人の紳士が注文の多い料理店に入り、最初は自信満々に扉の言葉を見ながら「どうことだろう？どうだろう」と言いながら店の奥へと進んでいく。しかし、自分勝手な二人の紳士は、次第に身ぐるみを剥がされ、無防備な状態になっていき、やがて山猫の店主に食べられてしまう条件が整っていく。この物語の展開になっているため、「くしゃくしゃ」「がたがた」「がたがたふるえ」「金文字」「紙くずのように風がどうとうふいて」など表現の工夫のおもしろさを見出しやすいものである。二人の紳士が扉に迫るたびに、店はどんな注文を紳士にするのだろうか、学習者は想像力を働かせ、読むことができると言える。また、次に紳士は「するだろう」と心情の変化や行動の理由についても思考を働かせながら推論した読みを進めることができる教材である。

物語の構成と内容においては、「設定」「展開」「山場」「結末」に分かれている。設定では、現実世界で紳士の性格が描かれ、展開「山場」では、不思議な世界（非現実世界）で三つの注文（招待準備、下ごしらえ）

が順に出され、展開がわかりやすくなっている。結末では、紳士たちが恐怖で別人のようになり、その様子が繰り返しや比喻で印象的に表現されている。物語全体を通して、風の音の反復による不思議な世界（非現実世界）への入口と出口が明確である。登場人物の心情や性格を捉えやすくなっている。

また、宮沢賢治の作品にしばしば見られる「自然とのかかわりや、人間に対する風刺」といった視点にも触れることで、物語を自分の生活や価値観と重ねて捉えることを促すことができる。自然に対する謙虚な姿勢や、人間の思い上がりへの批判など、物語に込められた教訓やメッセージを自分なりに読み取り、それを言葉で表現する活動を通して考えを広げたり深めたりしながら他者と共有する力も育成していくことができる。

さらに、この教材を学習することをきっかけに、宮沢賢治の他の作品にも関心を広げ、現代まで受け継がれてきた文学作品への他読へとつなげていくことができる。

【指導観】

これまでの既習文学作品を想起させ、どのような表現の工夫があったかを振り返り、本単元の目標を共有できるようにする。物語の設定や結末に印象をもったり、物語の展開におもしろさを感じたりした経験を発話させたい。「な表現がおもしろいと感じた」のような展開だからと強く感じたように、具体的な表現の工夫のつづやきを合うことで、学習者が表現の工夫を意識して本教材文を読みたくなる導入を行うようにする。二次の学習に入る前には、三次の表現の工夫について発見したことを友達や家族に解説するという物語のおもしろさを解説する言語活動を知らせることで、相手意識や目的意識をもたせ、学習へ挑ませることができる。

初発の感想を書く際は、どんな物語と思ったのか、その理由も加えてノートや感想カードに書くよう指示する。初発の感想と単元末に書いた感想カードと比較することで、自己の成長や考えの変容に気付くことができるようにノートや学習者用端末を活用し、記録していく。不思議に思ったことやみんなで考えたいことなど、表現の工夫に関わる内容の感想を書きやすくするために、六つの観点（反復、比喻、オマケ、色彩語、変化、人物）を提示し、どの学習者も表現の工夫に着目して言語化できる環境を整える。感想の共有の時には観点ごとに類別したり、一覧にしたりして読みの課題を共有できるようにする。共有方法については、学習者の実態に応じてCanvaを活用したり、感想カードを用意したりしておき、物語を読んで一番心に残ったベスト1（ワン）を交流し、観点ごとに類別して自他の考えを比較できるようにする。ここで共有した感想を読みの課題として位置づける。読みの課題については、構造と内容の把握、戸の言葉の意味、人物像を取り上げる。構造と内容の把握については、風の音が不思議な世界（非現実世界）の入口と出口であることに着目させ、ファンタジーの物語の構成であることを確認したり、誰が中心人物であるかを問うことでこれまでの中心人物には心情の変化があったことを想起させたりする。中心人物の二人の紳士がどのように変化を遂げるのかと人物像を中心に複数の叙述を関連付けて読み物語の全体像を捉えることができるようにすることで、物語の優れた叙述に着目しながら具体的に想像して読むことができるようにする。

二次の読解では、戸の言葉の意味、人物像を取り上げる。

戸の言葉の意味では、どのよう描かれているかと二人の紳士の様子や行動、会話文を関連付けることで、立場が変わると言葉の意味も変わるというおもしろさについて考えることができるようにする。

例えば、戸の言葉「あなたもどうかお入りなさい。決してごえんりはありません。」を「のうちは料理店だけれどもただでござるんだぜ。どうもそうらじ。決してご遠慮はありません」というのはその意味だ。」と都合よく解釈してしまう二人の紳士の様子を取り上げ、どのような人物であるかを考えることができるようにする。読者が二人の紳士にツッコムを入れる活動を行うことで、楽しみながら表現の工夫に目が向くようにする。

本時となる二次5時では、物語の結末にある「二人の紳士の顔だけが元にもどらなかつた」という文の理由や意味を考える。その際、人物像を描く複数の叙述を関連付けて読むことで、二人の紳士のもの見方や考え方が変わっていないことに気付けるようにする。結び付ける叙述として、「なんでもかまわないから早くソターンとやってみたい。鹿を殺して痛快だろうね。千四百円の損害。おおい、おおい、こごぞ、早く来い。途中で十円だけ山鳥を買って、命を軽視し奢り高ぶる描写と二人はあんまり心をいためたために、顔がまるでくしゃくしゃの紙くずのようになり、ぶるぶるふるえ、声もなぐさき泣いて泣いて

泣いて泣いて泣きましたなどの死を恐れる描写に着目できるようにする。

これらの叙述を関係付けて読むことで、二人の紳士が「生命への無関心」や「物質 拜金主義」に基づく利己的な価値観をもち、感謝という概念が表出していない人物であることを物語全体を通して、具体的に想像し読み進めることで、人物像を捉えることができるようにする。

三次では、これまで発見した表現の工夫について振り返らせることで、この物語を読んだことで自己の成長に気付くことができるようにする。物語おもしろパズルの中に書いた表現の工夫の中で、友だちや家族に伝えたいと思うおすすめベスト1をカードに書いて解説できるようにする。Canvaを使用することで、相互参照したり、どのような表現の工夫に着目しているのかを瞬時に共有したりすることができるため、学習者の実態に応じて、学習者用端末を使用する。

このように、表現の工夫のおもしろさを軸にしながら学習を進め、宮沢賢治の他作品や違う文学作品から表現の工夫を発見することで、読書生活をより豊かなものにできると考えた。

9 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	題名から物語の内容を想像する。 範読を聞き、初発の感想を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・題名や挿絵を基に、物語の内容について想像する。 ・感想のポイントとなる六つの観点を提示することで言葉に着目できるようにする。その際、Canvaを使って、交流しやすいように一番心に残ったことを視覚化する。 	[知識 技能] ・ファンタジー特有の構成を理解することができる。
	2	初発の感想を交流し、学習の見通しをもつ。 物語の構成と登場人物の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・感想の一覧やCanvaを使って感想を類別して、読みの課題を考えさせ、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・不思議な世界(非現実世界)の入口と出口に着目させ、ファンタジーの物語の構成であることを確認する。登場人物については誰が中心人物であるかを問い、その理由となる答えを考えさせる。 ・三次の物語おもしろパズル表現の工夫について発見したことを解説することを知らせ、学習意欲の動機付けを図る。 	
二	3	戸の言葉の本当の意味とは何かを考える。 山猫側：下ごしらえ～調理 紳士側：食事ができると解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・感想一覧やCanvaで交流した表現の工夫の中から戸に関する意見を取り上げ、立場が変わると言葉の意味も変わるおもしろさについて考えることができるようにする。学習者がどの戸の言葉について深く考えたいのか選択させ、個人やペア、グループで山猫側と紳士側の心内語を書かせ、戸の言葉には、二つの言葉の意味(ダブルミーニング)があることに気付かせる。 	[思考 判断 表現] 紳士の見方と山猫の意図の違いに気づき、面白さを伝えることができる。 [思考 判断 表現] 紳士の人物像に気づき、物語の設定の面白さを伝えることができる。

	<p>4 二人の紳士は、どんな 人物なのかを考える。 本当の紳士 礼儀正しい</p> <p>5 本時 なぜ、二人の紳士の顔だけが元に戻らなかったのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の設定や戸の言葉を都合よく解釈してしまう紳士たちの様子を根拠にどのような人物であるかを考えられるようにする。会話文を動作化させることで二人の紳士同士の関係性についても考えを広げることができるようにする。 ・なぜ、二人の紳士の顔が元に戻らなかったのかといふ読みの課題に対して、その理由となる考えを書くことで二人の紳士の物の見方や考え方の変容がないことを捉えられるようにする。物語の終わり方が表現の工夫であることに気付かせるために最後の一文が意味することについて考えることができるようにする。叙述や宮沢賢治の伝記からも二人の紳士の顔が元に戻らなかった意味について、思いを振り返りに書くことができるように助言する。 	<p>思考 判断 表現] 紳士の見方や考え方の変化の有無に気づき、物語全体や最後の一文から伝わってきたを考えることができる。</p>
<p>三</p>	<p>6 物語おもしろ 「パズル」のピースに表現の工夫について書き、振り返る。</p> <p>7 ○物語おもしろ 「パズル」の中に書いている表現の工夫のベスト1を選んで交流する。 単元全体の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の文学教材と比較させ、どんなおもしろさがあるのか、一番おすすめしたいおもしろさについて ノートや学習者用端末に書きまとめ学級全体ですぐに共有できるようにしておく。 ・Canva で解説文のテンプレートを配付し一番おすすめしたい物語のおもしろさベスト1を選ばせ解説文を書くようにさせる。(P.7 参照) ・初発の感想で書いたおもしろさと変化があってもよいことを伝えたりおもしろさの 観点を提示したりすることで、どのような表現の工夫に着目したかなぜおもしろいと考えたのかを明確に伝えられるように する。 ・最初に思っていた考え(物語、ベスト1)について振り返 らせることで、自身の考えの変容に気付くことができるようにする。 	<p>主体的に学習に取り組む態度] これまで学習したことから物語の一番 おもしろいと考えたことを選び、その おもしろ さを解説しようとしている。</p>
<p>知識 技能] 観察・ノート おおむね満足できる状況(B 評価 ・ファンタジー 特有の文章構成(現実 非現実 現実)に気づくことができている。 努力を要する状況(C)への手立て 文章構成を図式化したし、文章を現実と非現実で色分けしたりする。</p>			

思考 判断 表現] 観察 発言・ ノート

おおむね満足できる状況 (B 評価

紳士たちの人物像 (性格) から戸に書かれている「注文」を自分勝手に解釈する見方と生き物の命を大切にしない、紳士たちを懲らしめるための山猫の「注文」という違いに気づき、おもしろさを伝えることができる。

努力を要する状況 (C)への手立て

戸に書かれている「注文」に対する紳士たちの勝手な解釈については実際に紳士たちが行動しているので理解はしやすい。山猫側の意図を理解するのが難しいので、山猫側の意図になるよう戸の「注文」をリライトする。

思考 判断 表現] 観察 発言・ ノート

おおむね満足できる状況 (B 評価

紳士たちの見栄っ張りや生き物の命を大切にしないという人物像の大体に気づき、前時との学習とつなげて考え、物語の設定のおもしろさを伝えることができる。

努力を要する状況 (C)への手立て

人物像と前時の自分勝手に解釈する性格を結びつけて考えることが難しいので、人物像をとらえた上で前時の紳士たちの行動を劇化することで前時との学習のつながりをつける。

思考 判断 表現] 観察 発言・ ノート

おおむね満足できる状況 (B 評価

作者が物語に込めた想いを考え、どんな想いを理由もつけて伝えることができる。

努力を要する状況 (C)への手立て

・直接、作者が物語に込めた想いを考えることが難しいので、「作者はどうし紳士の顔しか変えなかったのか」という疑問をすることによって、子どもたちの読み方を読者目線から作者目線へ変えることによって作者の想いを考えやすくする。

主体的に学習に取り組む態度] 観察・ ノート・ 学習者用端末

おおむね満足できる状況 (B 評価

学習したことから物語のおもしろさを人物像と結びつけて伝えようとしている。

人物像設定をおもしろいと選んだ場合は人物像を余すことなく伝えようとしている。

努力を要する状況 (C)への手立て

これまで学習してきたことを想起したり、選択したりするために毎授業後に「おもしろいと思ったことを振り返り」として書き残しておく。

学習者が Canva で作成した成果物 物語の表現の工夫 ベスト1」

注文の多い料理店

私のベスト

反復

私のベストの表現の工夫は反復です！なぜかと言うと、反復を使うとその人物の心情がより分かりやすく、強調されるからです！強調すると、ここが大事なんだと読者が分かるので、ベストにしました！

その中でも、私が一番お気に入りなのは、139ページの「二人は泣いて泣いて泣いて泣いて泣きました。」のところです！ここでは、二人がもうすぐ西洋料理にされる時、とても泣いているのが分かるので、お気に入りです！

なので、みなさんも反復を気にしながら読んでみてはいかがでしょうか？

注文の多い料理店

ダブルミーニング

おなか(部屋の中)とお腹について

私は、この話でダブルミーニング(一つの言葉に複数の意味がある表現)と言う表現の仕方が面白いと思いました。その中でも一番面白いと思った一文は「さあさあ、おなかにお入りください。」です。理由は、おなか(部屋の中)とおなか(お腹)を掛けているのが新しい表現で面白かったからです。他にもダブルミーニングを使った文があるので皆さんもぜひ見つけてみてください。



注文の多い料理店

最後の一文

「しかし、さっきいっぺん続くようになった二人の願だけは、もうもとのとおりにありませんでした。」

宮沢賢治は、動物たちの命を何とも思っていない都会のしんしをはらはらどきどきする不思議さでこらしめるために「注文の多い料理店」をかかれたので私はこの一文が必要だと思います。

この一文は読者に「生物の命を大切にしてほしい」ということを伝えたかったんだと私はそう考えました。

ぜひ最後の一文を注目して読んでみてください。

10 本時の学習

(1) 本時の目標 (5 / 7)

「顔だけ」が元に戻らなかった 叙述を基に紳士の 性格 が 自分勝手、見栄っ張り、命や自然よりお金を大事にするなどを全体で共有し、二人の 顔が何を意味しているのかを 考えることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
<p>1 これまでの学習で獲得した表現の工夫や二人の紳士の人物像について振り返り 確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに獲得した物語おもしろパズルのピースには何があったかな。」二人の紳士は、どんな人物 だったかなと 学級全体に問いかけ、既習内容の側面掲示を読みながら確認できるように する。 C: 比喻、反復、色彩語、オノマトペ C: 見栄っ張り、自己中心的な考え、勘違い、都合の良い解釈、見せかけ紳士、動物の命を軽視、偽物の猟師 	
<p>なぜ、顔だけが元にもどらなかったのかを考えよう。</p>		
<p>2 二人の紳士の様子を思い浮かべながら最後の一文 を音読し、視写する。</p> <p>3 最後の一文から、二人の紳士の顔だけが元に戻らなかった理由について考え、交流する。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>山場の二人はあんまり心をいためたために、顔がまるでくしゃくしゃの紙くずのようになり」と結末の 顔だけが元にもどらなかったを結び付けることで、身なりを気にしていた紳士の顔だけが 変わったことに気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くしゃくしゃにした 紙くずと紙 の違いを考えさせることで、くしゃくしゃの言葉の働きについて問い直すことができるようにする。 なぜ、二人の紳士の顔だけが元に戻らなかったのかについての理由である考えをノートに書かせることで、ペアで相談したり交流したりすることができるようにする。 ・内面が変わらなかった 叙述を中心に取り上げ、叙述 (根拠となる文や言葉) と解釈 (学習者の考え) を分けた構造的な板書にする。命 の軽視、拝金主義、利己主義」が「紙くずのよう な顔」として表れていることを想像できるように しておく ・結末の二人の紳士の顔が何を意味しているのかをまとめに書くように指示し 物語の終わり方も工夫することで、暗示性やメッセージ性が高まることを指導する。 ・本時の学習を通して、どのようなことが分かったかを問い、物語のおもしろさである表現の工夫について振り返ることができるようにする。 	<p>[思考 判断 表現]</p> <p>発言・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語全体や最後の一文から紳士の外見や内面の変化の有無に着目し、顔だけがもどらない理由を、複数の叙述と結び付けて考えることができる。

題名

「注文の多い料理店」 ↓どんな料理店？どんな注文？

作者

宮沢賢治

設定 (現実の世界)

◎登場人物 二人の若いしんし

- ・イギリスの兵隊の形・びかびかする鉄ぼう・白熊のような犬 ▶見栄っぱり
- ・「何でもかまわないから、早くタンタアーンと・・・」
- 「実にぼくは、二千四百円の損害だ。」 ▶動物の命を軽く考えている。

展開・山場 (非現実の世界)

風がどつどつふいてきて、草はザワザワ、木の葉はカサカサ、木はゴトゴトへと鳴りました。

・扉 (七つの扉・13の注意書き)

1. ガラスの開き戸、金文字

⊕【どなたもどうか(どうぞ) お入りください。決してごえんりよはありません(いりません。)】

⊕【ことに太ったおかたやわかいおかたは、大かんげいたします。】 (両方がねている。)

2. 水色のペンキぬりの戸、黄色の文字 ▶注意！ **風がどつどつ部屋の中に入ってきました。**

3. 赤い文字 ▶危険！

4. 黒い戸、黒ぬりのりつばな金庫 (服や身に着けているものを取る。)

5. ガラスのつぼ、牛乳のクリーム

6. 金びかのこう水のびん(す)、青い瀬戸の塩つぼ (もみこむ)

7. 大きなかぎあなが二つ、銀色のホークとナイフ ▶二つの青い目玉

【さあさあ、おなかにお入りください。】

↓
顔がまるでくしやくしやの紙くずのよう

風がどつどつふいてきて、草はザワザワ、木の葉はカサカサ、木はゴトゴトへと鳴りました。

(展開のはじまりと同じ言葉)

結末 (現実の世界)

★変わったもの・・・顔、見た目

★変わらなかつたもの・・・性格、生きざま、人間性

↓ 作者のメッセージは・・・

- ・見せかけだけの人間になつてはいけない。
- ・顔がもどらないことで教訓になる？
- ・自然を大切にせず、しつぺ返しを食らう。
- ・誠実さが大切。

6年 国語科学習指導案

検証授業 大阪市立堀川小学校 河村 太一

- 1 日 時 令和7年9月9日(火)第6校時(14:35~15:20)
- 2 学年組 第6学年1組(在籍 33名)
- 3 単元名 表現に着目して、考えたことをポスターにまとめよう
(中澤 晶子「模型のまち」東京書籍 6年)

4 単元目標

- (1) 物語に描かれた表現の工夫に気付くことができる。 (知識及び技能) (1)
- (2) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
思考力、判断力、表現力等)C (1)工
- (3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えをまとめることができる。
思考力、判断力、表現力等)C (1)力
- (4) 進んで表現の効果を捉えながら物語を読み、学習の見通しをもって、読んで考えたことを伝え合おうとし
ている。 学びに向かう力、人間性等)

5 単元間の関連と系統

前単元(5年10月) 本単元(6年9月) 次単元(6年12月) 次単元(中学1年11月)

学習材 「注文の多い料理店」 登場人物の変化や表現の工夫を探しながら読み、物語のおもしろさを書く	学習材 「模型のまち」 表現に着目してその効果を考えながら読み、感じたことを伝え合う	学習材 「海のいのち」 人物の生き方について考え、物語が自分に語りかけてきたことを伝え合う	学習材 「少年の日の思い出」 作品の構成の工夫や表現の効果について考える
--	--	---	--

6 単元で取り上げる言語活動

本単元では、「考えたことをポスターにまとめよう」という言語活動を設定する。ポスターの構成は「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」とする。「心に残った表現とその効果」では、本学習材のキーワードである「模型のまち」「白ビー玉」という言葉や、それらに関わる表現(言葉や文)が物語にどのような効果(意味)をもたらしているのかを書かせるようにする。「作品から伝わるメッセージ」は、本学習材を読んだ学習者が感じたことを書かせるようにする。

この言語活動を行うために、繰り返される表現や色彩語に着目しその効果を考える必要がある。したがって、「考えたことをポスターにまとめよう」という言語活動は、本単元に適した言語活動であるといえる。

(関連 思考力 判断力 表現力等) C(1)力)

7 評価規準

知識 技能	思考 判断 表現	主体的に学習に取り組む態度
比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。(1)ク	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすることができる。C(1)工 文章を読んで理解したに基づいて、自分の考えをまとめることができる。C(1)才	言葉がもつよさや表現の効果を認識するとともに、課題解決に向けて、進んで読み、思いや考えを伝え合おうとしている。

8 指導にあたって

【学習者観】

本学級の学習者は、昨年「注文の多い料理店」や「矢造いさんとがん」で物語文における表現の工夫（色彩や比喻表現、情景描写）を捉えることで、物語の世界観に厚みを加え、読み手の想像力を高めることを学習している。

今年度、4月「なぎたちの教室」では、登場人物の気持ちを朗読で表現しようという単元のめあてに向けて、学習に取り組んだ。単元を通して、登場人物の思いや捉えたことを聞き手に伝わるように朗読するためにはどうすればよいか」という問いを持ち、声の大小や強弱、読む速さ、間の取り方などの表現の工夫について毎時間考えた。場面ごとに内容を読み進めていく中で、児童は「黒い物、透明」の色彩表現や「シールドみたい」の比喻表現、「花びらをまきあげ」の情景描写から中心人物の心情を捉えることができた。そして、第三次ではこれまでに考えた工夫を基に朗読を行った。しかし、限られた時数の中で実際に読んだり考えた工夫を共有したりする機会が少なかつたためか、読み取ったことを朗読で表現できている学習者と、できていない学習者の差が大きく見られた。

6月「風切るつばさ」では、同じ作者の作品を読み上げようという単元のめあてに向けて、学習に取り組んだ。登場人物の様子や行動から人物相関図を作成し、そこから登場人物の心情を考えた。学習者は、中心人物クルルの心情がカララの「黙ったまま寄り添う」という行動によって変化していくことに気付くことができた。学習の終末には、同じ作者の作品の読み聞かせを行ったり、学級に読書環境を置いたりすることで、興味をもって読書に取り組む様子が見られた。

学習者は、本単元に臨むにあたっての戦争や平和への知識、理解は少ない。しかし、本単元の学習をきっかけとして、戦争と平和について考えようとする態度や関連する図書への興味に繋がってほしい。また、これまでの学習では、課題に対してペアやグループ全体で意見を出し合い、考えていくような形態を主にやってきており、個別に学習形態、学習課題を選択したり、対話する相手を選んだりするような経験は少ない。

学習者用端末を活用した経験としては、Teamsで録音した朗読をAI採点したり、振り返りを入力したり、Canvaで係活動の掲示物を作成したりしてきた。本単元の言語活動でも学習者用端末を活用することで、活用の幅を更に広げてほしい。

【単元観】

本単元では、題名や繰り返し出てくる表現、情景や心情を描いた表現などに着目して読み、物語を読んで感じたり考えたりしたことを伝え合う学習を通して、表現の効果を捉えることをねらいとしている。

本学習材は、4年生「一つの花 世界一美しいぼくの村」、5年生「手塚治虫」以来の戦争を題材にした教材である。ひろしまのことを何も知らずに転校してきた亮という6年生の男の子が、クラスメイトの真由や、その兄である圭太との模型のまち作りをきっかけに変化していく。とはいえ、亮はすぐに変化するわけではない。白い模型のまちを作り終え、眠りの中で転がり出てきた「ビー玉」を手に、かつちゃんという少年たちと遊ぶことを通して、ようやくそこに自分たちと同じ子どもたちがいたのだということに気付く。さらに、地層調査で昔の道具（三角定規やインクの瓶、歯ブラシ、ビー玉など）を見つけたことで、そこかつてまちがあったことに思いを馳せ、戦争というものを身近に感じるようになっていく。また、本学習材は、時間の経過によって場面が分かれており、第一場面と第八場面が現在の出来事、第二～七（五を除く）場面が過去の出来事、第五場面がかつちゃんの生きていた時代の出来事（夢）から構成されている。

戦争や平和に実感がわかない学習者は、物語の中の亮と重なり、亮の心情の変化を自分に引き付けて読み深めることができるだろう。模型のまちや「ビー玉」、色彩語についての表現に着目して読むことで、亮の心情を捉え、自分との重なりを意識しながら読むことができる。

このように、本学習材は、学習者が表現の効果を捉えることに適した学習材であるといえる。また、これから戦争や平和について考えようとするきっかけになるものである。

【指導観】

第一次では、本学習材への導入として、題名読みを行い、興味をもって読み進めていけるようにする。また、

言葉の力を確認、これまでに学習した表現の工夫を振り返ることで、学習の系統性を意識できるようにする。本文通読後、「感想」「気になった表現とその理由」「作品から伝わるメッセージ」を考えるようにする。「気になった表現とその効果」については、まとめたものを掲示し、第二次からの学習で共有していくようにする。また、第三次のポスター作成の際に比較することで、自身の学習を実感できるようにする。そして、既習の学習材である「注文の多い料理店」を基に作成したポスターを提示することで、本単元の言語活動の見直しをもてるようにする。本単元に取り組んでいる間、図書室から集めた戦争と平和について書かれた作品を学級に置くことで、読書の幅を広げ、質を高めていけるようにしたい。

第二次からは、物語の構成について考える。時間の経過によって場面が分かれていることや、亮を中心に物語が進んでいくことを捉え、決められた場面の出来事を学習班でまとめていく。そして、それぞれの出来事を全体で共有する。また、文章全体を通して、一番変容があった人物はだれか、変容に関わるキーワードは何かを考えることで、繰り返し出てくる言葉である「模型のまち白比」に「ビー玉」に気付くことができるようにする。そして、「それらが何を表しているのか。を大きな問い、それらに関わる表現(言葉や文)が物語にどのような効果(意味)をもたらしているのかを小さな問いとして位置付ける。第3時では、この問いを考えていくために、ジグソー法を用いた活動を設定する。

ジグソー法では、自ら追究したい表現や課題解決に向けての話し合いをしたい級友を選択できるようにすることで、協働的な学びを促進し、主体的に学習に取り組めるようにしていく。ジグソー法は以下のような活動に分けられる。

活動	学習活動	指導上の留意点
準備	・学習班で三つの表現(模型のまち、白、ビー玉)の中から一つ	・特に考えたい表現を決める。
エキスパート活動	・決めた表現ごとに「模型のまち」「白」「ビー玉」の三つの班(エキスパート班)に分かれる。 ・それぞれの班で「それらに関わる表現(言葉や文)」を探し、「それらが物語にどのような効果(意味)をもたらしているのか」を考えていく。	・学習者がより多くの意見に触れることができるようエキスパート活動では、多くの級友と話し合う機会を持つように声掛けを行う。
ジグソー活動	・エキスパート活動で考えたことを、学習班で発表共有する。	異なる表現であっても、意見を出し合うことで、それぞれのつながりを考えられるようにする。

このように、ジグソー法では、各班が決めた表現について考えることで、その表現の専門家(エキスパート)として、授業に臨むことができ、それぞれの視点から問いの答えに迫っていくことができる。なお、エキスパート活動においては、考えが出にくい学習者に対しては、「指導者がグルーピングを操作する」「班全体や他の班からの意見を求める」「初発で出てきた表現を提示する」などの支援を行う。第4時では、前時で考えた表現と、亮の心情とのつながりを確かめながら、中心人物である亮がどのように変容したのか、そのきっかけは何なのかを考えるようにする。

学習の振り返りは第二次から実施し、振り返る観点には、「授業前後の考えの変化」「新しい発見や疑問点」「友達との交流について」「友達にアドバイスしたこと」「されたこと」とする。また、それぞれの観点の話型を示すことで、学習者が振り返りを書く際の手立てになるようにする。

第三次では、単元のまとめとして、「『模型のまち』『白』『ビー玉』が何を表しているのか。」という大きな問いについて、自分の考えをまとめる。そして、これまでの学習を基に、「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」をポスターにまとめる。ポスターは、CanvaやGoogleスライド、画用紙など、学級の実態によって選択できるようにする。また、作成したポスターは後方に壁面掲示し、学習者がそれぞれの考えを共有できるようにする。

9 指導と評価の計画 (全 5 時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法等
一	1	<p>題名読みをする。</p> <p>初発の感想を書く。</p> <p>学習の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題名読みをすることで、興味を持って学習に取り組めるようにする。 ・本文を通読し、「気になった表現とその理由」「作品から伝わるメッセージ」を考える。 ・既習の学習材を基に作成したポスターを提示することで、本単元の言語活動を捉えるようにする。 	
二	2	<p>物語の構成を考える。</p> <p>一番変容があった人物はどれか、変容に関わるキーワードは何かを考える。</p> <p>本単元の問いを知る。</p> <p>ジグソー法の概要を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過によって場面が分かれていることを捉えることで、物語の大体をつかめるようにする。 ・繰り返し出てくる言葉を探すことで、模型のまちは白ビー玉に気付けるようにする。 ・『模型のまちは白』『白』『ビー玉』が何を表しているのか。」を大きな問い、それらに関わる表現(言葉や文)が物語にどのような効果(意味)をもたらしているのか」を小さな問いとして捉えるようにする。 ・ジグソー法を伝えておくことで、次時より活動をスムーズに促すようにする。 	<p>[知識 技能]</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉や題名などに着目し、人物の変容に関わる表現に気付いているかの確認
	3	<p>表現の効果について考える。(ジグソー法)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙に対する解釈の相違があった場合は、意味調べを行うように促し言葉の意味や働きを理解できるようにする。 	<p>[思考 判断 表現]</p> <p><u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果について考え、分かったことを文章で表現しているかの確認
	4 本時	<p>表現の効果をもとに、中心人物の変容とそのきっかけについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で考えた表現と亮の心情とのつながりを確かめながら、中心人物の変容を捉えられるようにする。 	<p>[主体的に学習に取り組む 態度]</p> <p><u>ノート観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、進んで読み、自分の考えを伝え合っているかの確認
三	5	<p>大きな問いについて考える。</p> <p>「心に残った表現とその効果」作品から伝わるメッセージ」をポスターにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末や画用紙を用いて、自分の思いが表現できるようなテンプレートや素材を選べるようにする。 ・作成したポスターは後方に壁面掲示し、学習者がそれぞれの考えを共有 	<p>[思考 判断 表現]</p> <p><u>ノート・学習者用端末・ポスター</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果について考えたことをポスターにまとめているかの確認

	単元の振り返りを行う	できるようにする。 単元の振り返りとして何ができたのか。やそれを今後どう生かすことができるのか。を書かせるようにする。	
<p>知識 技能] ノート おおむね満足できる状況 (B 評価) 繰り返し出てくる言葉や比喻表現、題名に着目して、「ビー玉 模型のまち白」 に関わる表現が、人物の変容に関わることに気付いている。</p> <p>努力を要する状況 (C)への手立て ・ 題名や人物の心情と関る言葉を探したり、繰り返し出てくる言葉に 丸を付けたりすることで、「ビー玉 模型のまち白」の言葉に着目できるようにする。</p> <p>思考 判断 表現] ワークシート おおむね満足できる状況 (B 評価) 繰り返し出てくる「ビー玉 模型のまち白」 に関わる表現の意味を考えたり それぞれの表現と人物の変容と結び付けたりしながら その効果を捉えている。</p> <p>努力を要する状況 (C)への手立て ・ 指導者がグルーピングを操作したり 班全体で意見を出す機会を設けたり 他 の班からの意見を求めたりすることで、考えることができる ようにする 。</p> <p>思考 判断 表現] ノート・ 学習者用端末 ポスター おおむね満足できる状況 (B 評価) ・ 学習者用端末や画用紙などを活用し、「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」 について、これまで考えたことを生かしながら ポスターにまとめている。</p> <p>努力を要する状況 (C)への手立て これまでのノートを見返したり 掲示物を確認したりすることで、ポスターにまとめられるようにする。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度] ノート観察 おおむね満足できる状況 (B 評価) 課題解決に向けて、 これまでに考えた表現の効果 をもとに、 級友の考えを自分の考えに付け加えたり 自分の思いを伝えたり している。</p> <p>努力を要する状況 (C)への手立て ・ これまでの ノートを見返したり 掲示物を確認したりすることで、自分の考えを もてるようにする。</p>			

10 本時の学習

(1)本時の目標 (4 / 5)

表現の効果をもとに、中心人物が変容とそのきっかけ について考える ことができる。

(2)本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1 前時までの学習を振り返り 本時の学習課題をつかむ。	・前時で考えた表現の効果を振り返る。 亮の 変容とそのきっかけについて 考えると いう学習の見通しを 持つことができるよう にする。	
表現の効果をもとに、亮の変容ときっかけ について考えよう		
2 亮の変容について考える。	転校生でひろしまについての理解、関心 の 低い亮が、ひろしまの過去を覚えておこう と変容する様子を捉えるようにする。	
3 亮が変容したきっかけにつ いて考える。	かっちゃんとの出会い やそれぞれの表現の 効果を確認することで、 きっかけ を捉えら れるようにする。	<p>主体的に学習に取り 組む態度]</p> <p>ノート観察</p> <p>課題解決に向けて進ん で読み、自分の考えを伝 え合っている</p>
4 学習をまとめる。	・『中心人物』が『きっかけ、出来事』によっ て『変容』になる話」という一文でまとめる ようにする。	
5 本時の学習を振り返る。	・観点に沿った 振り返りを行えるよう 話型 を提示する。	

11 板書計画

教科書 P128
の挿絵

8

ぼくはずっと覚えてる。
このまちに、夏が来る。

まとめ

亮が [] によって
[] になる話

ふりかえり

教科書 P131
の挿絵

1

あのまちを思い出す亮

2

転校してきたばかりでひろしま
について関心のない亮

3

4

・もけいのまち作り
・白いままねむっていた。

5 (白い模型のまち)
白じゃない。色がある。ピー玉
かっちゃん「このでかい玉が待ってる。」

6 夢？現実？
色があった。温かった。

7 地層調査
ねむっていたまちの断片
じっと見つめるひとみのよつだった。
いたけれど、いなくなった。かっちゃんが死んだ

模型のまち

中澤 晶子

6年 国語科学習指導案

検証授業 大阪市立新東三国小学校 梅澤 言海
 総研分科会 大阪市立中津小学校 永浦 倫子

- 1 日 時 令和7年11月11日(火)第5校時(14:00~14:45)
- 2 学年組 第6学年1組(在籍23名)
- 3 単元名 心に残った表現をポスターにまとめよう
(中澤 晶子「模型のまち」東京書籍 6年)

4 単元目標

- (1) 物語に描かれた表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1)
- (2) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) E
- (3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えをまとめることができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) カ
- (4) 進んで表現の効果を捉えながら物語を読み、学習の見通しをもって、読んで考えたことを伝え合おうとし
ている。 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元間の関連と系統

前単元(5年10月) 本単元(6年9月) 次単元(6年12月) 次単元(中学1年11月)

学習材 「注文の多い料理店」 登場人物の変化や表現の工夫を探しながら読み、物語のおもしろさを書く	学習材 「模型のまち」 表現に着目してその効果を考えながら読み、感じたことを伝え合う	学習材 「海のいのち」 人物の生き方について考え、物語が自分に語りかけてきたことを伝え合う	学習材 「少年の日の思い出」 作品の構成の工夫や表現の効果について考える
--	--	---	--

6 単元で取り上げる言語活動

本単元では、「心に残った表現ポスター」という言語活動を設定する。このポスターの構成は「心に残った表現とその効果『作品から伝わるメッセージ』をまとめるようにする。『心に残った表現とその効果』では、本学習材のキーワードである「模型のまち」「白ピー玉」という言葉や、それらに関わる表現(言葉や文)が物語の中で、どのような効果意味をもたらしているのかを捉え、まとめるようにする。『作品から伝わるメッセージ』は、本学習材を読んだ学習者が、単元の学習を終えて、作品から「感じたことを書く」ようにする。

この言語活動を行うためには、物語の中で繰り返し出てくる表現や色彩語に着目し、その意味を人物の心情の変化と関係付けながら捉える必要がある。したがって、「心に残った表現ポスター」という言語活動は、本単元に適した言語活動であるといえる。

[関連 思考力 判断力 表現力等] C(1)カ)

7 評価規準

知識 技能	思考 判断 表現	主体的に学習に取り組む態度
比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。(1)ク	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現効果を考えたりすることができる。C(1) E 文章を読んで理解したに基づいて、自分の考えをまとめることができる。C(1)オ	言葉がもつよさや表現の効果を認識するとともに、課題解決に向けて進んで読み思いや考えを伝え合おうとしている。

8 指導にあたって

【学習者観】

本学級の学習者は、昨年の「注文の多い料理店」では、物語をおもしろくしている表現の工夫についての学習を行った。現実・非現実・現実といふ顔縁構造や、繰り返し出てくる色彩表現やオマケ、扉に書かれた言葉の意味の違いなどの表現に着目することで、物語のおもしろさを捉えることができた。「大造しさんとがんで」は、大造しさんの行動・会話・様子から心情を想像することで、人物像を捉えたり、情景描写から人物の心情を想像したりし、イメージ豊かに物語を読み味わってきた。

今年度の4月「さなぎたちの教室」では、登場人物の気持ちを想像し朗読で表現しようという単元のめあてに向けて、学習に取り組んだ。単元を通して、登場人物の心情について既習を生かし「黒い物」「透明」などの色彩表現や「シールみたいの」の比喩表現、花びらをまきあげの情景描写などの表現に着目し、中心人物の心情を捉えることができた。そして、第三次では、捉えた心情をもとに、声の強弱や読む速さ、間の取り方などを工夫しながら捉えたことを朗読で表すことができた。朗読する際には、自分の好きな場面を選んで学級全体で朗読会を行い、一人一人の捉えたことの違いが聞き手に伝わるように、朗読を行うことができた。

6月「風切つばさ」では、人物どうしの関係を捉え、心情の変化を想像しようという単元のめあてを設定し、学習に取り組んだ。人物どうしの関係を捉えるために、クレル・カラ群れのみんなの関係を人物相関図にまとめる活動を行い、それぞれの状況や背景を踏まえ、人物の心情を想像することができた。人物同士の関係を図に整理し、それぞれの行動・会話・様子を整理することで、学習者は、中心人物クレルの心情がカラの黙ったまま寄り添うという行動によって変化していくことに気付くことができた。

このように、学習者は表現の工夫を読み取ったり、人物同士の関係を捉えたりすることができる。しかし、人物の特徴や変容を表す暗示的な表現を読み取り、そこからどんなことが分かるかといった、表現の効果を捉えるまでには至っていない。また、6月に「ピース大阪」に社会見学に行き平和学習をしたり、読書の時間に戦争に関する本を読んだりしている。しかし、全体的に戦争についての知識や理解は少ない。

【単元観】

本単元では、題名や繰り返し出てくる表現、情景や心情を描いた表現などに着目して読み、物語を読んで感じたり考えたりしたことを伝え合う学習を通して、表現の効果を捉えることをねらいとしている。

本学習材は、4年生「一つの花 世界一美しいぼくの村」、5年生「手塚治虫」以来の戦争を題材にした教材である。ひろしまのことを何も知らずに転校してきた亮という6年生の男の子が、クラスメイトの真由や、その兄である圭太との模型のまち作りをきっかけに変化していく。とはいえ、亮はすぐに変化するわけではなく、白い模型のまちを作り終え、眠りの中で転がり出てきた「ビー玉」を手にとり、かつちゃんという少年たちと遊ぶことを通して、ようやくそこに自分たちと同じ子どもたちがいたのだということに気付く。さらに、地層調査で昔の道具（三角定規やインクの瓶、歯ブラシ、ビー玉など）を見つけたことで、そこかつてまちがあったことに思いを馳せ、戦争というものを身近に感じるようになっていく。また、本学習材は、時間の経過によって場面が分かれており、第一場面と第八場面が現在の出来事、第二～七（五を除く）場面が過去の出来事、第五場面がかつちゃんの生きていた時代の出来事（夢）から構成されている。

戦争や平和に実感がわかない学習者は、物語の中の亮と重なり、亮の心情の変化を自分に引き付けて読み深めることができるだろう。「模型のまち」や「ビー玉」、色彩語についての表現に着目して読むことで、亮の心情を捉え、自分との重なりを意識しながら読むことができる。

このように、本学習材は、学習者が表現の効果を捉えることに適した学習材であるといえる。

【指導観】

第一次では、表現の効果を捉えるという言葉の力を確認することで、単元で身に付ける国語の力について学習者が意識できるようにする。既習の学習材を想起し、表現の工夫には「反復色彩語」「比喩」「情景描写」などがあつたことを振り返ることができるようにする。表現の工夫について振り返った後、第三次で取り組む言語活動のモデルを示し、単元の見通しをもつことができるようにする。

その後、心に残った表現を考えながら読むことを確かめ、全文を通読し、初発の感想を書くようにする。初発

の感想は、心に残った表現とその理由」「不思議に思ったこと」「物語を読んで伝わってきたこと」の三つの観点を活用することで、表現に着目したり物語から自分が受け取ったことに焦点を当てたりすることができるようにする。特に「心に残った表現とその理由」については、物語の中で出てくるピー玉や色彩語、情景描写に関するものを意図的に取り上げることで、人物の心情や変化と表現を関係付けて捉える学習につなげるようにする。

さらに、繰り返し出てくる表現は何かを問うことで、本学習材で表現の効果を考える際に重要となる「模型のまち白ピー玉」に着目できるようにする。そして、それらが「何を表しているのか」や、それらに関わる表現（言葉や文）が物語でどのような効果（意味）をもたらしているのかを学習者に問いかけることで、本単元のねらいに迫っていく視点を明確にして、第二次の学習の見通しをもたせたい。

第二次の第2時では、物語全体の構成を捉えるために、場面ごとの出来事を表に整理するようにする。時間の経過によって場面が分かれていることや、亮が真由や圭太、かつちゃんたちと関わることによって物語が進んでいくことを捉えることができるようにする。また、表に整理することで、現実・夢・現実という類縁構造となっていることにも気付くようにし、物語の大体を捉えることができるようにする。場面ごとの出来事を整理していく時は、「～な亮。」とまとめることで、中心人物の亮の視点から読むことができるようにする。全場面、そのようにまとめた後に、物語全体で亮が大きく変わった山場を問い、どのように変容したのかをまとめることで、次時の学習を円滑に進めることができるようにする。

第3時は、亮のまちな見方が変わる前だと分かる表現を見付け、その表現の効果について考えるようにする。「ピー玉」や「模型の）まち」、色彩に関する表現に着目して見付けていくようにすることで、亮のまちな見方が変化していない自分には関係のない昔の建物にすぎないふうで終わりぴんとこない白いままねむっていたなどの叙述に着目できるようにする。

本時では、亮のまちな見方の変化が分かる色があるかつちゃんの手は温かかったじつと見つめるひとみのようそれがはつきりわかったなどの表現を見付け、それぞれの表現からどのようなことが分かるのかを考えることで、表現の効果を捉えることができるようにする。その際、第3時で見付けた変化前の亮が分かる表現を振り返ることで、それぞれの表現を対比させ、表現の効果に迫ることができるようにする。

第3時と本時においては、学習者が「一人で考える話し合いながら考える友達の考えを聞く友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようにすることで、自身の学びの調整を図ることができるようにする。さらに、表現の効果を捉える際、言葉の意味を調べたい学習者には、タブレット端末を活用し、いつでも言葉の意味を調べてよいように、学習環境を整えるようにする。また、学習の振り返りは、授業前後の考えの変化、新しい発見や疑問点、友達との交流について「友達にアドバイスしたこと、されたことの観点を活用し、学習者が学びを自覚できるようにする。

第三次では、単元のまとめとして、これまでの学習をもとに、心に残った表現とその効果（そこから分かること）作品から伝わることをポスターにまとめる。ポスターは、CanvaやGoogleスライド、画用紙など、学習者の実態によって選択できるようにする。また、作成したポスターは後方に壁面掲示し、学習者がそれぞれの考えを共有できるようにする。

なお、本単元に取り組んでいる間、図書室から集めた戦争と平和をテーマとする作品などの関連図書を学級に置くことで、読書の幅を広げ、日常的な読書へつなぐことができるようにしたい。

9 指導と評価の計画（全 6 時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法等
—	1	単元や学習の見通しを立て、初発の感想を書く	既習の学習材をもとに作成したポスターを提示することで、本単元の言語活動のモデルを示すようにする。 心に残った表現とその理由」「不思議に思ったこと」作品を読んで伝わってきたことの観点を示し、初発の感想を書くことができるようにする。	

二	2	○物語全体の構成を捉える。	時、場所、人物に着目して場面分けを行い、出来事を表に整理する。 繰り返し出てきた表現は何か問うことで、「ピー玉模型のまち」「白」に着目することができるようにする。	【知識 技能】 ノート 繰り返し出てくる言葉や題名などに着目し、人物の変容に関わる表現に気付いているかの確認
	3	○表現をもとに、ひろしまに無関心だった亮について捉え、表現の効果を考える。	繰り返し出てきた「ピー玉やまち」色彩語に着目して、考えるように促す。 ・「一人で考える話し合いながら考える友達の考えを聞く友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようにすることで、学びを調整することができるようにする。	【思考 判断 表現】 ノート 観察 「ピー玉まち」色彩語に関する叙述から、亮の心情に関わる表現の効果を考えることができているかの確認
	4 本時	○表現をもとに、亮の変化について考え、表現の効果を考える。	前時に学習した変化前の根拠となる叙述の表現を振り返ることで、対比になっている表現にも気付くことができるようにする。 ・「一人で考える話し合いながら考える友達の考えを聞く友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようにすることで、学びを調整することができるようにする。	主体的に学習に取り組む態度】 ノート観察 ・目的をもって交流し、級友の考えを参考にして、自分の考えに付け加えたり深めたりしようとしているかの確認
	5	「心に残った表現とその効果」作品から伝わること」をポスターにまとめる。	・Google classroom や画用紙など、ポスターを作成したいものを選択できるようにする。 作成したポスターは、印刷し、教室内に壁面掲示することで、学習者が互いの考えを知ることができるようにする。	【思考 判断 表現】 ノート 学習者用端末・成果物 表現の効果について考えたことをポスターにまとめているかの確認
三	6	単元の振り返りを行う	単元の振り返りとして、何ができるようになったか。また、次回の似た単元でどう生かすことができるか。」を書かせるようにする。	
<p>【知識 技能】 ノート おおむね満足できる状況（ B 評価 繰り返し出てくる言葉や比喻表現、題名に着目して、「ピー玉模型のまち」「白」などの表現が人物のまちの見方の変化に関わることに気付いている。 努力を要する状況（ C ）への手立て ・題名や人物の心情と関わる言葉を探したり、繰り返し出てくる言葉にまるをつけたりすることで「ピー玉模型のまち」「白」の言葉に着目できるようにする。</p> <p>【思考 判断 表現】 ノート観察 おおむね満足できる状況（ B 評価 繰り返し出てくる「ピー玉模型のまち」「白」などの表現の意味を考えたり、それぞれの表現と人物</p>				

の心情の変化を結び付けたりしながら、表現の効果を捉えている。

努力を要する状況（ C ）への手立て

- ・初発の感想を振り返ったり繰り返し出てくる言葉や色彩語に着目したりすることで、表現と人物の心情を結び付けて考えることができるようになる。

思考 判断 表現] ノート・学習者用端末・成果物

おおむね満足できる状況（ B ）評価

- ・学習者用端末や画用紙などを活用し、「心に残った表現とその効果『作品から伝わるメッセージ』」についで、これまで考えたことを生かしながら、ポスターにまとめている。

努力を要する状況（ C ）への手立て

これまでのノートを見返したり、掲示物を確認したりすることで、ポスターにまとめられるようにする。

主体的に学習に取り組む態度] ノート観察

おおむね満足できる状況（ B ）評価

- ・課題解決に向けて、交流のめあてをもって交流し、級友の考えを参考にして自分の考えに付け加えたり深めたりしようとしている。

努力を要する状況（ C ）への手立て

- ・これまでのノートを見返したり、掲示物を確認したりすることで、自分の考えをもてるようにする。

10 本時の学習

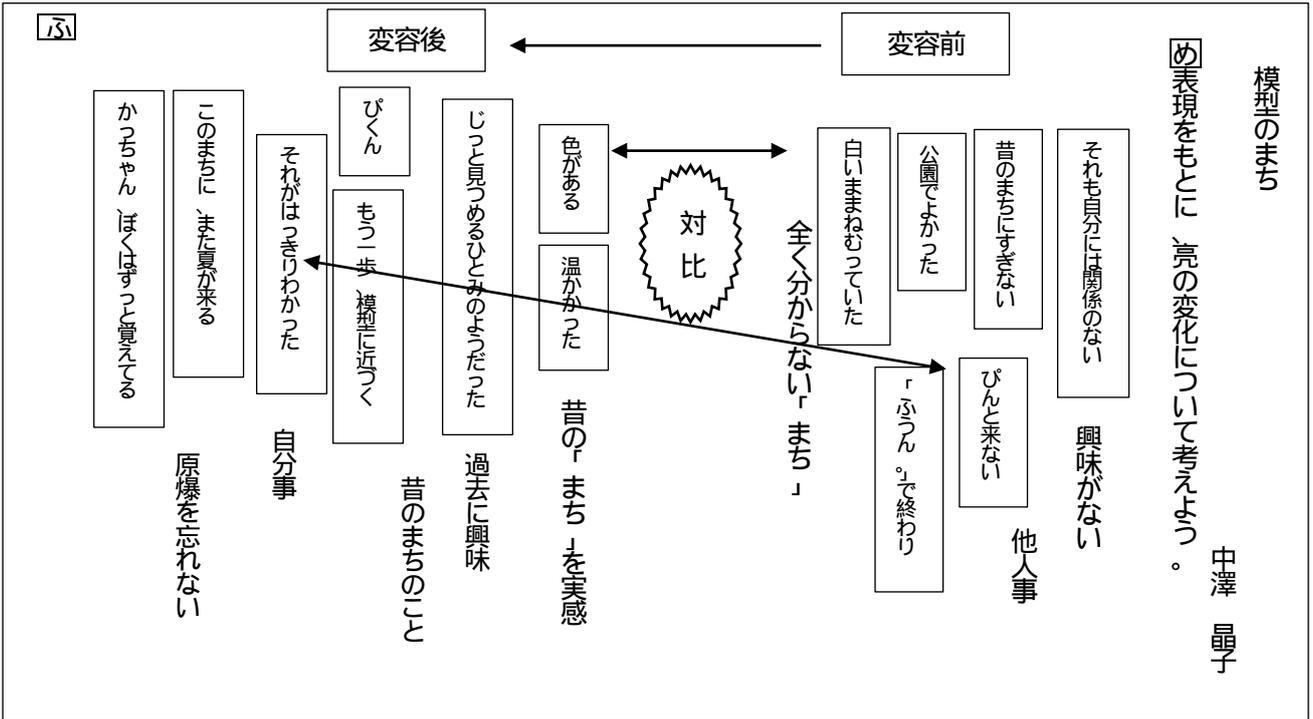
(1) 本時の目標 (4/ 6)

「ピー玉 や まち」色彩語に着目して、亮の 変化が分かる表現を見付け、その表現の効果について考えることができる。

(2)本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>・前時の学習を想起し、亮が変化する前であることが分かる表現と、その効果を振り返る。</p>	
<p>表現をもとに、亮の変化について考えよう</p>		
<p>3 亮の変化が分かる表現を見付け、その効果について考える。</p> <p>4 全体で共有する。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>「ピー玉 や まち」色彩語に着目して、亮が変化したことが分かる表現を見付けていくように促す。</p> <p>・「一人で考える、話し合いながら考える」 友達の考えを聞く、友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようにすることで、学びを調整することができるようにする。</p> <p>前時に学習した「亮が変化する前であることが分かる表現」と「亮が変化した後であることが分かる表現」と結び付けて考えることで、対比関係の表現があることに気付くことができるようにする。</p> <p>「これらの表現から分かることは何ですか」と発問することで、表現と人物の変化を関係付けて考えたり、物語全体で暗に示して意味を捉えたりすることができるようにする。</p> <p>振り返りの際は、「学習前後の考えの変化」「新しい発見や疑問、交流して分かったこと、友達にアドバイスしたこと、されたこと」の4観点を示すことで、学習者が学びの深まりを実感できるようにする。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」</p> <p>ノート観察</p> <p>・目的をもって交流し、級友の考えを参考にし、自分の考えに付け加えたり、深めたりしようとしているかの確認。</p>

11 板書計画



だいたい 亮の 亮し止れば昔 建ついくとと 切川本 生とま 3に少 玉がい様指 代る

森ても室、出が終っ。の知てつ、こ、の、六、先こ生母、手、る、てれ、ほの、わ、た、模、。、。、るわ

※著作権保護のため、本文をふせています。
教科書 P128 ~ P131L8
を参照してください。

【題名読み】プラモデル・限られた中・つくり物
【発問案】題名から、どんな物語だと想像できますか。

設定 (ポケットの中に、ビー玉が：)

- 五つのビー玉
↓後に、亮が夢の中で遊んだ子どもの人数
- 額縁構造
- 冒頭部分は、結末と時間軸が重なる。
- あのまち⇨ひろしま
- 指示語「あの」↓変容後の亮のまちの捉え方。
↓かっちゃんと遊んだ「あの」まち
- 物語全体を通して見られる体言止め。
- 【発問案】いつ、どこで、誰が出てきますか。
- いつ：春から夏にかけて
- どこで：ひろしま
- 誰が
←
登場人物の整理
・亮(中心人物)
・おじさん
・母さん
・真由(対人物①)
・圭太
・かっちゃん(対人物②)
- 物全体を通して、ビー玉という言葉が繰り返される
↓亮は小さなガラス玉に吸い寄せられた
- ひろしま
↓平和・被爆を象徴する「ヒロシマ」(かたかな)表記ではない。語り手は亮に寄り添っているため、亮にとっては、ただの「まち」でしかない。
- 広島市(原爆ドーム周辺)の地形的な説明。
【発問案】亮が転校してきたところは、どんなところでしょうか。
- 地の文で亮の心情を表現⇨語り手が亮の目と心から語っている。
- つまんない：地の文だが、会話文のような表記になっており、語り手が亮に寄り添っていることがここでも分かる。
⇨視点：三人称限定視点
- 戦後八十年(二〇二五年現在)
- 「何だかつまんない」
「自分には関係のない」
「昔の建物にすぎない」
「昔の出来事より、新しい学校生活」などの叙述から、亮が過去の戦争の出来事を他人事として捉えていることが分かる。模型のまちを表す「白」色と重なる。
- 【発問案】転校してきた亮は、まちに対してどんな印象をもっていますか。
- 対岸
↓亮にとって原爆ドーム(広島の過去)は、向こう側にある⇨関心度が低い。
- その日も：広い公園を歩いていた
↓この時点で亮にとって、平和公園は帰り道ではない。

「評価から活動を考える教材研究シート」

6年【櫻のまち】 言葉の力「表現の効果を捉える」

評価規準		達成している姿	言語活動の構成要素
【知 技】	<p>比喩や反復などの表現の工夫に気付いている(1)ク</p>	<p>題名や繰り返し出てくる言葉に着目すること、亮の変容に係る色彩語や比喩表現を見付け、サイドラネを引いている。</p>	<p>成果物のネーミング【心に残った表現ポスター】</p>
	<p>「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)工</p>	<p>繰り返し出てくる「ビー玉」型「白」などの表現の意味を考えたり、それぞれの表現と人物の変容を結び付けたりしながら、表現の効果を捉えている。</p>	
【思 判 表】	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。C(1)才</p>	<p>「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」の二つの観点を活用し、人物の変容と「ビー玉型」のまちな白」などの表現を関係付け、表現の効果について考えたことをポスターにまとめている。</p>	
	<p>進んで表現の効果を捉えながら物語を読み、学習の見通しをもち、考えたことをまとめようとしている。</p>	<p>表現の効果を捉えるという目標に向かって、級友の考えを参考にして自分の考えに付け加えたり、深めたりしている。</p>	

学習目標：人物像や人物の変容と表現の効果を関係付けて捉え、心に残ったこととまとめよう。

本質的な問い(言葉の力の内容が答えになるような 問い)

印象的な表現がなぜ心に残るのかを捉えるには、どうすればよいのか？

永続的な理解(言葉の力の内容)

物語の題名や繰り返し出てくる表現と人物の変容を関連させながら読む。

エキスパート活動 (ビー玉)

名前 ()

- ① 「ビー玉」が本文中にいくつ出てくるのか。
○で囲む。
 - ② 「ポケットの中に、ビー玉が五つ。」なぜ五つあるのか。
 - ③ 「亮はときどきそれにさわる。」なぜ、ビー玉をさわっていたのだろうか。
 - ④ 「白じゃない、色がある。ビー玉ー!」とは、どういうことなのか。
 - ⑤ 「あの白い大玉。黄色と赤の模様が閉じこめられて、それは亮をじつと見つめるひとみのようだった」のは、なぜか。
 - ⑥ 「いたけれど、いなくなつた。白いビー玉を残して」とは、どういうことなのか。
- ☆ 「ビー玉」は物語にどのような効果をもたらしているのか。